

(参考) 第6期鳥取県障がい福祉計画及び第2期鳥取県障がい児福祉計画に規定した施策の評価・実績

1 福祉施設の入所者の地域生活への移行

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5年度	R3年度	R4年度	
施設入所者数	人	952以下	942	926	各年度末実績
削減見込み数	人	16以上	21	16	当該年度中の削減数実績
地域生活への移行者数	人	59以上	4	4	施設入所から自宅、グループホーム等へ移行する者の数

項目	状況	評価
1 住まいの場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3件(住居数)の施設整備費の助成により、グループホームの新規整備を促進している。R4には、医療的ケアが可能なグループホームの整備の助成を実施。</li> <li>※整備数はR4年度交付決定分含む(特に記述がない限り、以下施設・設備整備費関連項目同様)</li> <li>・夜間支援員の配置に係る補助事業等により、52住居に夜間支援体制を確保している。</li> <li>・県営住宅の募集において、障がい者世帯を優先入居の対象とし、優先的に取り扱うこととしている。</li> <li>・H24.11に鳥取県居住支援協議会を設立し、あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録・公開すると共に、2名の専任相談員による情報提供及び相談対応を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホームの整備により、地域でのサービス提供基盤や住まいの場の確保が進んでいるが、今後も地域生活を行う上での基盤整備を推進していくことが必要。</li> <li>・今後も優先入居の取扱いを継続し、障がい者の住まいの確保に取り組む。</li> <li>・R3年度に35世帯、R4年度に33世帯の障がい者世帯が安心賃貸支援事業により入居決定。あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録件数は横ばいとなっており、普及啓発、情報提供及び不動産事業者・支援団体に対する協力依頼等により、今後も登録の拡大を推進していくことが必要。</li> </ul>
2 日中活動の場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3件の施設整備費の助成により、日中活動の場の確保に努めている。</li> <li>・工賃3倍計画事業を行うとともに、ハートフルサポート事業や農福連携推進事業等の実施により、工賃水準の上げを支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施により、日中活動事業所の整備が図られているが、今後もニーズへの対応が必要となるサービスにおいては、引き続き施設整備を推進していくことが必要。</li> <li>・工賃の向上に関する取組は、引き続き推進していくことが必要。</li> </ul>
3 障害福祉サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3件の障害福祉サービス事業所の施設整備費に助成している。</li> <li>・サービスの充実のため、「サービス提供責任者研修」、「障がい福祉従事者分野別基礎研修」、「相談支援従事者研修」、「強度行動障がい者支援研修」、「サービス管理責任者研修」等を継続して実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施により、障害福祉サービスの充実が進んでいるが、引き続き施設整備等を推進していくことが必要。</li> <li>・新たな研修需要にも対応しており、サービス充実に一定の効果があると判断。今後も高齢の障がい者や強度行動障がい者への支援に関する研修の充実が必要。</li> </ul>
4 相談支援体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活支援センターを全市町村が設置、県はその経費の4分の1を助成している。</li> <li>・相談支援従事者の技術向上を図るため、初任者研修、現任研修、主任研修、フォローアップ研修及び専門コース別研修を実施している。</li> <li>・地域の相談支援の核となる基幹相談支援センターの設置を促進している。</li> <li>・市町村等からの要請に基づき、市町村等にアドバイザーを派遣し、相談支援等に関する助言を実施している。</li> <li>・身体障害者・知的障害者相談員の資質の向上や活動の強化を促進するため、研修会を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者の地域生活を推進するためにも、各地域における相談支援体制の確保・充実が必要であり、各事業を着実に継続実施していく必要がある。</li> <li>・基幹相談支援センターの各市町村(各圏域)への設置を促し、地域における相談支援体制の強化及び相談支援の質の向上を図っていくことが必要。</li> </ul>
5 啓発・広報活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいサポート運動(H21.11月から実施)の研修等を各地で行うことにより、普及・啓発の取組を推進。また、他県との連携協定を通じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいサポート運動は、県内に留まらず全国へと広がりを見せており、多くの者に一定の理解と賛同を得られているものと評価。</li> </ul>

	<p>て共生社会の実現に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者週間ポスター、心の輪を広げる体験作文を募集し、優秀作品を表彰した。</li> <li>・ 障がい者に関する情報をまとめた「よりよい暮らしのために」を障害者手帳交付時に配布している。</li> </ul>	<p>&lt;あいサポーター研修開催数&gt; 82件（R3年度）、135件（R4年度）</p> <p>&lt;R4年度末時点&gt; 連携協定締結数：8県16市6町 あいサポーター数：624,848人</p>
6 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域生活を体験できる場の提供として「地域生活体験事業」を実施する市町村に助成している。</li> <li>・ 「日中一時支援（地域生活支援事業）」を行う市町村に対し、県はその経費の4分の1を助成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域生活を行う動機付け等のため、体験できる場の提供は必要。</li> <li>・ 全市町村で日中一時支援事業を実施しており、今後も引き続き、事業実施が必要。</li> </ul>

## 2 精神障がいにも対応した地域の受け皿づくり

### ア 精神障がい者の精神病棟から退院後の地域における平均生活日数

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5年度	R3年度	R4年度	
精神障がい者の精神病棟からの退院後1年以内の地域における平均生活日数	日	316以上	未集計	未集計	

### イ 在院期間1年以上の長期在院者数

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5年度	R3年度	R4年度	
在院期間1年以上の長期在院者数（65歳未満）	人	223以下	240	252	
在院期間1年以上の長期在院者数（65歳以上）	人	520以下	513	548	

### ウ 入院後一定期間時点での退院率

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5年度	R3年度	R4年度	
入院後3ヶ月時点の退院率	%	69	国公表前	国公表前	H29年度の実績 61.69%
入院後6ヶ月時点の退院率	%	86	国公表前	国公表前	H29年度の実績 75.97%
入院後1年時点の退院率	%	92	国公表前	国公表前	H29年度の実績 87.01%

### エ 精神障がい者のサービス利用者数の見込み

項目	単位	目標値			実績			備考
		R3年度	R4年度	R5年度	R3年度	R4年度	R5年度	
地域移行支援	人	13	17	22	5	4	—	
地域定着支援	人	10	11	15	0	10	—	
共同生活援助	人	170	182	195	264	294	—	
自立生活援助	人	16	19	23	30	28	—	

### オ 精神病床における退院患者の退院後の行き先

項目	単位	目標値			実績			備考
		R3年度	R4年度	R5年度	R3年度	R4年度	R5年度	
在宅	人	147	168	189	116	117	—	グループホーム含む
施設（障がい・介護）	人	32	36	41	38	26	—	
その他（他院・自院の精神病床以外等）	人	27	31	35	25	28	—	

項目	状況	評価
1 住まいの場の確保	・ 3件（住居数）の施設整備費の助成により、グループホームの新規整備を促進している。	・ グループホームの整備により、地域でのサービス提供基盤や住まいの場の確保が進んでい

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県営住宅の募集において、障がい者世帯を優先入居の対象とし、優先的に取り扱うこととしている。</li> <li>・H24.11に鳥取県居住支援協議会を設立し、あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録・公開すると共に、2名の専任相談員による情報提供及び相談対応を実施している。</li> </ul>	<p>るが、今後も地域生活を行う上での基盤整備を推進していくことが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も優先入居の取扱いを継続し、障がい者の住まいの確保に取り組む。</li> <li>・R3年度に35世帯、R4年度に33世帯の障がい者世帯が安心賃貸支援事業により入居決定。あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録件数は横ばいとなっており、普及啓発、情報提供及び不動産事業者・支援団体に対する協力依頼等により、今後も登録の拡大を推進していくことが必要。</li> </ul>
2 地域生活支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援従事者の技術向上を図るため、初任者研修、現任研修、主任研修、フォローアップ研修及び専門コース別研修を実施している。</li> <li>・地域の相談支援の核となる基幹相談支援センターの設置を促進している。</li> <li>・市町村等からの要請に基づき、市町村等にアドバイザーを派遣し、相談支援等に関する助言を実施している。</li> <li>・身体障害者・知的障害者相談員の資質の向上や活動の強化を促進するため、研修会を実施している。</li> <li>・精神障がい者の休日夜間における相談・診療・入院応需に対応するため、県内の精神科病院を「精神科救急医療施設」に指定し、各圏域に精神科救急医療体制を確保している。また、各圏域で「精神科救急医療体制連絡調整会議」を開催し、関係機関と精神科救急の連携を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者の地域生活を推進するためにも、各地域における相談支援体制の確保・充実が必要であり、各事業を着実に継続実施していく必要がある</li> <li>・基幹相談支援センターの各市町村（各圏域）への設置を促し、地域における相談支援体制の強化及び相談支援の質の向上を図っていくことが必要。</li> <li>・県内精神科病院の協力により、24時間、365日の精神科救急医療体制を確保。※R4年度末時点で県内7病院を精神科救急医療施設として指定。</li> </ul>
3 医療の質の向上（早期発見、支援体制の確保）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急隊が速やかに傷病者を医療機関に搬送できるようにするため、精神疾患の項目を設けた「傷病者の搬送及び受入れに関する実施基準」を策定し、H23年度から運用を開始している。</li> <li>・精神障がい者の休日夜間における相談・診療・入院応需に対応するため、県内の精神科病院を「精神科救急医療施設」に指定し、各圏域に精神科救急医療体制を確保している。また、各圏域で「精神科救急医療体制連絡調整会議」を開催し、関係機関と精神科救急の連携を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内精神科病院の協力により、24時間、365日の精神科救急医療体制を確保。※R1年度末時点で県内7病院を精神科救急医療施設として指定。</li> </ul>
4 精神疾患・障がいに関する知識の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障がい者地域移行・地域定着支援関係者研修会及び精神科訪問看護管理者・従事者研修会等で、精神疾患に関する正しい知識の普及を実施した。</li> <li>・「心の健康フォーラム」を開催し、精神障がい者に対する県民の理解を深め、社会復帰及び社会参加を促進した。</li> <li>・当事者団体が実施する普及啓発事業（精神障がい、てんかん、高次脳機能障がい、依存症等）について、運営費を助成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施により、県民への精神障がいに対する正しい理解・知識の普及、当事者の社会復帰・社会参加の促進が図られている。</li> </ul>
5 精神障がい者地域移行・地域定着支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各圏域で、保健・医療・福祉の各分野の責任者（精神科病院、市町村等）や実務担当者の会議を開催し、関係機関等とのネットワークづくりを推進した。</li> <li>・精神保健福祉センターにおいて、退院支援や訪問看護に従事する職員を対象とした地域移行に係る研修会を開催した。</li> <li>・西部圏域をモデル圏域とし、精神障がい者等の支援困難事案について、関係機関等とのケース検討や家庭訪問等を通じて協働支援を実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関と情報共有を行いながら取組を進めることで、地域移行への意識付けや関係機関の連携強化に繋がるとともに、障がい者の地域移行・地域定着に繋がった。</li> </ul>

	<p>施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西部圏域をモデル圏域とし、地域支援者（市町村、相談支援事業所等）による病院訪問等を通じて、入院中の精神障がい者の退院促進を図るとともに、保健・医療・福祉関係者による協議の場を設置して取組の検証を行いながら、精神障がい者に対応した地域全体で支える仕組みの構築に取り組んだ。</li> </ul>	
--	--	--

### 3 地域生活支援拠点等が有する機能の充実

項目	単位	目標値			実績			備考
		R3 年度	R4 年度	R5 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	
検証及び検討を行う市町村数	市町村	19	19	19	10	10	—	
検証及び検討の回数	回	25	25	25	40	37	—	

項目	状況	評価
1 地域生活支援拠点の機能の充実	・全市町村（圏域単位含む）に地域生活支援拠点が整備された。	・地域生活視点拠点の運用状況等の検証、検討を実施していない市町村もある。拠点の機能充実を図っていくためにも、検証、検討を実施していく必要がある。

### 4 福祉施設から一般就労への移行

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5 年度	R3 年度	R4 年度	
福祉施設から一般就労への移行	人	92	70	62	
就労移行支援事業からの一般就労移行者数	人	19	22	21	
福祉施設から一般就労への移行（就労 A 型）	人	9	15	9	
福祉施設から一般就労への移行（就労 B 型）	人	64	33	32	
就労移行支援事業等を通じて一般就労に移行する者のうち、就労定着支援事業の利用率	%	70	58	33.3	
就労定着率が 8 割以上の就労定着支援事業所の割合	%	70	25	50.0	
就労移行支援事業及び就労継続支援事業利用者の一般就労移行者数	人	92	70	62	
障害者に対する職業訓練の受講者数	人	10	1	0	
福祉施設から公共職業安定所への誘導者数	人	51	28	17	
福祉施設から障害者就業・生活支援センターへの誘導者数	人	72	23	16	
福祉施設利用者のうち公共職業安定所の支援を受け就職する者の数	人	51	28	17	

項目	状況	評価
1 障がい者雇用の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工団体、障害者就業・生活支援センター、就労支援団体、鳥取労働局、鳥取障害者職業センター及び県関係部局等で構成する「鳥取県障がい者雇用推進会議」（会長：副知事）を開催し、障がい者の雇用推進、職場定着に向けた取組み等の意見交換を行うとともに、関係機関の連携を図った。</li> <li>・障がい者雇用アドバイザーを県庁に 1 名配置し、法定雇用率未達成企業をはじめとした企業トップに対し、障がい者雇用の働きかけ等を行った。</li> <li>・令和 4 年度に働きやすい職場づくりのガイドブック「ともに働く職場づくり」を作成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取労働局、障害者就業・生活支援センター等との連携した取組みにより、障がい者の実雇用率は年々増加している。令和 6 年 4 月に法定雇用率が引き上げられる（2.3%→2.5%）こともあり、引き続き雇用促進、職場定着が図られるよう関係機関と連携した取組みを継続するとともに、多様な働き方について、取組みを進めていく必要がある。</li> <li>・障がい者雇用アドバイザーは、企業トップへ障がい者雇用の働きかけを行うことができるため、極めて有効と評価。</li> <li>・令和 5 年度以降、ガイドブックを活用して、障がい者雇用に企業へ働きかけていく。</li> </ul>

2 特別支援学校における企業等と連携した職業教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校から職場への円滑な移行と定着を図るため、就労定着支援員を東部1名、中部1名、西部1名、琴の浦高等特別支援学校3名の計6名を配置し、在学中から卒業後までの就労促進及び職場定着支援を行った。</li> <li>特別支援学校進路担当者情報共有会を開催し、在学中から卒業までの就労促進及び職場定着に向けての情報を共有した。また、労働局が主催するプロジェクトリーダー会議に参画し、関係機関との連携強化に努めた。</li> <li>各圏域で就労促進セミナーを開催し、企業への理解啓発を促進するとともに、関係機関との連携強化を図った。</li> </ul>	<p>就労定着支援員の配置は、生徒の就職率向上に大きく貢献している。就職希望者の多くが在籍する琴の浦高等特別支援学校では、就労に向けた専門的な職業教育を行っており、今後も琴の浦高等特別支援学校を中心として、全圏域で就労定着支援員を活用した特別支援学校と企業との連携強化が必要である。</p>
3 総合的な就労支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>各障害者就業・生活支援センターに、各担当職員（職場開拓、定着支援、生活支援、発達障がい者就労支援等）を配置し、障がい者の就業支援を行うとともに、中西部の障がい者職場定着推進センターにジョブコーチ（職場適応援助者）を継続配置し、職場実習先の開拓、職場定着の支援を行った。</li> <li>障害者就業・生活支援センター登録者及び就労移行支援事業等の利用者の職業訓練機会提供のため、各イベント及び担当者会議で職業訓練コースの周知を図っている。</li> <li>鳥取労働局、鳥取障害者職業センター等と連携し、令和元年度実施の「障がい者雇用実態調査」の結果を踏まえて、障がい者雇用企業トップセミナー、障がい者が働く職場の相談員研修会等を実施した。</li> <li>障がい者一般就労移行ネットワーク会議により、支援者が連携し、一般就労移行しやすい環境を整えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者のニーズや個性に応じた適切な就業支援が行われるよう引き続き研修等を通じた啓発やスキルアップを図るなど、一般就労へ向けた支援を行っていくことが必要である。</li> <li>職場実習から就職決定につなげることができ、就職後もジョブコーチや職場定着支援員による定着支援を行えた。</li> <li>「障がい者雇用実態調査」の結果を活用し、障がい者就労の支援者に対する研修を行うなど、就労支援者のスキルアップを行えた。</li> </ul>
4 障がい特性に応じた就労支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取労働局、鳥取障害者職業センターと共催で、障がいを理解し職場の同僚等として障がい者を支えるための「とっとり障がい者仕事サポーター養成講座」を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>とっとり仕事サポーター養成講座により、職場の上司や同僚の障がい特性への理解が深まった。</li> </ul>
5 福祉的就労の底上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害者優先調達推進法に基づき、調達方針を定め、障がい者就労施設等からの物品の優先調達を行うとともに、鳥取県就労事業振興センター内に設置した共同受注窓口等を通じて、県以外の機関への働きかけを行った。</li> <li>障がい者のはたらき・自立のための工賃向上事業により、就労継続支援事業所の特性に応じて、専門家派遣や研修などの支援を行った。</li> <li>障がい者一般就労移行支援事業により、実習受入企業への謝金支給等を行い、就労移行支援事業所等からの一般就労移行を促進した。</li> <li>とっとりモデルの共同受注体制構築事業により、複数の障害福祉サービス事業所が作業可能な共同作業場を設置、運営し、大量受注を可能とする環境を整えた。</li> <li>農福連携推進事業により、農家と障害福祉サービス事業所とのマッチングを推進するとともに、マルシェの開催による農福連携の取組紹介や農福連携を通じた地域と障がい者との連携による仕事作りに取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工賃向上事業を受託実施する鳥取県就労事業振興センターを中心とした事業実施など、工賃向上に向けた取組が着実に進み、工賃向上に貢献。</li> <li>工賃実績は、H18年度工賃実績（10,983円）から着実に増加し、R4年度は過去最高の20,378円となった。</li> <li>引き続き、工賃向上に向けた取組を実施していくことが必要。</li> </ul>
6 年金・手当等	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害年金のパンフレットについて、関係機関に送付し、制度の周知に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受給資格者への確実な年金受給に貢献している。</li> </ul>

## 5 障がい児支援の提供体制の整備等

### ア 児童発達支援センターの設置及び保育所等訪問支援の充実

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5年度	R3年度	R4年度	
児童発達支援センターの設置	箇所	7	4	7	
保育所等訪問支援事業所の設置	箇所	8	14	18	

項目	状況	評価
児童発達支援センターの設置及び保育所等訪問支援の充実	各圏域に利用できる事業所は設置されている。	引き続きサービスの充実が必要

### イ 難聴児支援のための中核的機能を有する体制の構築

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5年度	R3年度	R4年度	
難聴児支援のための中核的機能を有する拠点の整備	箇所	1	0	1	

項目	状況	評価
難聴児支援のための中核的機能を有する拠点の整備	令和4年度にきこえない・きこえにくい子のサポートセンター『きき』を設置し、難聴児の支援拠点を整備した。	支援拠点を整備し、県内の難聴児支援の充実が図られた。

### ウ 主に重症心身障がい児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所の確保

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5年度	R3年度	R4年度	
主に重症心身障がい児を支援する児童発達支援事業所の設置	箇所	7	3	3	
主に重症心身障がい児を支援する放課後等デイサービス事業所の設置	箇所	7	4	4	

項目	状況	評価
主に重症心身障がい児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所の設置	放課後等デイサービスは各圏域に1箇所は設置されている。児童発達支援は東部、中部のみの設置。	引き続きサービスの充実に向けて必要

### エ 医療的ケアを要する障がい児支援のための関係機関の協議の場の設置及びコーディネーターの配置

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5年度	R3年度	R4年度	
医療的ケアを要する障がい児支援のための関係機関の協議の場の設置	箇所	5	4	5	
コーディネーターの配置市町村数	市町村	19	14	15	
コーディネーターの養成人数	人	120	115	138	

状況	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>各圏域及び県における協議の場を設置した。</li> <li>全市町村への医療的ケア児等コーディネーターの配置を目指し、毎年医療的ケア児等コーディネーター養成研修を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村、圏域、県における協議の場の連携と役割分担を整理しつつ、引き続き整備を図ることが必要。</li> <li>未配置の市町村があるため、引き続きコーディネーターの養成が必要</li> </ul>

### 6 相談支援体制の充実・強化等

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5年度	R3年度	R4年度	

相談支援体制の充実・強化等	箇所	各市町村又は圏域で1以上の基幹相談支援センターを設置できるよう支援	3	3	※実績は設置数 鳥取市、中部(1市4町)、 米子市に各1箇所設置
---------------	----	-----------------------------------	---	---	--

## 7 障害福祉サービスの質を向上させるための取組に係る体制の構築

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5年度	R3年度	R4年度	
障害福祉サービス等の質を向上させるための取組に係る体制の構築	箇所	障害福祉サービス事業者や自治体における研修体制の充実やサービス提供実態の把握に努め、サービスの適切な提供、よりよいサービス提供に資する情報発信等、市町村等とも連携して障害福祉サービスの質の向上を図るための取組に係る体制を構築	-	-	
指導監査結果の関係市町村との共有	回	関係市町村に対し、県実施指導監査の結果を年1回以上共有	1	1	

## 8 障害福祉サービス等の確保策

項目	状況	評価
(1) 居宅介護・重度訪問介護・同行援護、行動援護・重度障害者等包括支援	・サービス提供職員に対し、サービス提供責任者研修、行動援護従業者養成研修、同行援護従業者養成研修等を実施。 ・重度訪問介護等に係る国庫負担基準を超過する市町村に対する助成事業を実施。	・適正な障害福祉サービスを提供するために必要となる人材の確保、資質の向上に繋がった。
(2) 生活介護	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・事業実施により、資源の基盤確保や利用者の環境改善等が図られた。 ・施設整備は、施設入所者の地域移行の流れの中で日中支援の場としてサービス需要が増えていくと考えられ、引き続き基盤整備の促進が重要となる。
(3) 自立訓練（機能訓練）	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(4) 自立訓練（生活訓練）	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(5) 就労移行支援	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(6) 就労継続支援（A型）	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(7) 就労継続支援（B型）	・2件の施設整備（大規模修繕）に助成。 ・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。 ・R4.4.1から西部圏域において、総量規制の新たな取扱い(新設、増設にあたり市町村の意見書を添付)を開始した。	・サービス提供量が障がい福祉計画に定めるサービス見込量に達していない地域においては、今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。 ・総量規制の取扱いをより実効性のあるものとするため、令和5年度中にサービスの質を評価する一定の指標を作成予定。
(8) 就労定着支援	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(9) 療養介護	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・施設整備のニーズや実態等の把握に努める。
(10) 短期入所	・1件（共同生活援助との併設）の施設整備に助成。 ・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・事業実施により、資源の基盤確保や利用者の環境改善等が図られた。 ・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(11) 自立生活援助	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に	・今後もサービスの需要に対応するため、引き

	対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(12) 共同生活援助 (グループホーム)	・2件の施設整備に助成。 ・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(13) 施設入所支援	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後も入所者の生活環境改善等に対応していくことが必要。
(14) 計画相談支援・地域移行支援・地域定着支援	・地域生活支援事業(障がい者福祉従業者等研修事業)により相談支援専門員の数を増やしつつ、フォローアップ研修や現任研修等で資質向上を図ることにより、計画相談支援の利用環境を整えた。 ○相談支援専門員初任者研修 受講54人 ○相談支援専門員現任研修 受講32人	・今後も相談支援専門員の人材育成や資質向上を図っていくことが必要。 ・県地域自立支援協議会での人材育成に関する検討のほか、人材育成ビジョンに沿った人材育成を実施していく。
(15) 児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援、障害児相談支援、福祉型障害児入所支援、医療型障害児入所支援	・1件(多機能型)の施設整備に助成。 ・施設整備等の希望を聞く際に、制度の内容や助成制度の情報提供を、該当する全法人に対し行い、その中で事業の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(16) 移動支援	・移動支援事業を実施する市町村に対し、県はその経費の4分の1を助成した。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、事業実施していくことが必要。

## 9 障害者支援施設の必要入所定員総数

	単位	R5年度	R4年度	R3年度	備考
計画	人	1,018	1,022	1,026	
実績	人		968	1,004	

状況	評価
・施設入所者の地域移行に取り組むことで、入所施設の定員減員を進めていくこととしているが、施設入所者の重度化・高齢化が進む中、地域移行が進まず減員が進んでいない。	・県地域自立支援協議会の地域移行支援部会等において、本県の地域移行の現状等の把握に努めるとともに、地域移行を促進するための議論を通じて施設入所者の地域移行に取り組むことで、入所施設の定員減員を進めていく。 一方で、入所施設は高齢の障がい者や行動障がいのある障がい者等にとっては必要な社会資源であり、今後も一定の定員数を確保することが必要である。

## 10 障害児入所施設の必要入所定員総数

### ア 福祉型障害児入所支援

	単位	R5年度	R4年度	R3年度	備考
計画	人	59	59	59	
実績	人		59	59	

### イ 医療型障害児入所支援

	単位	R5年度	R4年度	R3年度	備考
計画	人	60	60	60	
実績	人		60	60	

## 11 発達障がい者等に対する支援

項目	単位	目標値	実績	備考
----	----	-----	----	----



		R5 年度	R3 年度	R4 年度	
発達障がい者支援地域協議会の開催回数	回	2	2	2	
発達障がい者支援センターによる相談支援件数	件	1,500	1,409	1,655	
発達障がい者支援センターの関係機関への助言件数	件	100	19	37	
発達障がい者地域支援マネージャーの関係機関への助言件数	件	110	72	82	
発達障がい者支援センター及び発達障がい者地域支援マネージャーの外部機関や地域住民への研修、啓発件数	件	400	344	288	
ペアレントトレーニングやペアレントプログラム等の支援プログラム等の受講者数	人	92	88	111	
ペアレントメンターの人数	人	80	70	70	
ピアサポートの活動への参加人数	人	126	254	237	

項目	状況	評価
発達障がい者支援地域協議会	保健、医療、福祉、教育、雇用関係機関等で構成する協議の場において、支援体制の検討をしている。	ライフステージに応じた切れ目のない支援体制について引き続き検討が必要とされる。
発達障害者支援センター	『エール』発達障がい者支援センターに8名の職員を配置し、相談支援、発達支援、就労支援を行っている。	県内の発達障がいの支援体制において、専門機関としての役割を果たしている。
発達障害者地域支援マネージャー	H30、R1は鳥取療育園に、R2は『エール』発達障がい者支援センターに1名配置した。	発達障がい者支援センターと協同し、市町村への後方支援を行い、身近な地域での支援の充実を図る必要がある。
外部機関や地域住民への研修、啓発	家庭、地域、学校、関係機関を対象とした研修会を実施している。	障がいに対する正しい理解と支援技術の向上が図られている。
ペアレントトレーニングやペアレントプログラム等の受講者数	発達障がいのある子どもとの適切な関わり方を学ぶためのプログラムを療育機関等で実施している。	県で養成したファシリテーターが、自らが所属する事業所でペアレントトレーニングを開始するなど、保護者支援に繋がっている。
ペアレントメンターの人数	現在、84名のペアレントメンターを登録しており、各地域で保護者支援を行っている。	令和5年度に新たに14名のペアレントメンターを養成した。今後も計画的に養成する必要がある。
ピアサポートの活動への参加人数	ペアレントトレーニングやペアレントメンターによる相談の場を含め、県内で様々なピアサポート活動が行われている。	県内には既に複数のピアサポート活動があるが、今後もこうした活動が広がり、継続していくよう活動を支援していく必要がある。

## 12 医療的ケアを要する障がい児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置人数

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5 年度	R3 年度	R4 年度	
コーディネーターの配置市町村数	市町村	19	14	15	
コーディネーターの養成人数	人	120	115	138	

状況	評価
全市町村にコーディネーターを配置することを目標として、毎年「医療的ケア児等コーディネーター養成研修」を行っている。	未配置の市町村があるため、引き続きコーディネーターの養成をするとともに、質の向上に努める必要がある。

## 13 障がい児の子ども・子育て支援等の提供体制の整備

項目	単位	目標値	実績		備考
		R5 年度	R3 年度	R4 年度	
第1号認定（受入施設：幼稚園、認定こども園）	件	80	65	62	

第2号認定（受入施設：保育所、認定こども園）	件	625	385	404	
第3号認定（受入施設：保育所、認定こども園等）	件	44	33	34	
放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）	件	473	355	369	

状況	評価
障がい児が、他の児童と同様に保育所等を利用できるように保育士等の加配経費への助成や、保育士等への研修を行っている。	地域の保育所等で障がい児の受入れがすすむよう、市町村と連携し、引き続き体制整備を図る必要がある。

## 14 県が実施する地域生活支援事業

### ①専門性の高い相談支援事業

項目	状況	評価
ア 発達障がい者支援センター事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>『エール』発達障がい者支援センターにおいて、全ライフステージの発達障がいのある人やその家族、支援者からの相談に応じている。成人期の相談が増えている。</li> <li>市町村や事業所等に対する技術的援助、人材育成、機関コンサルテーション、研修会への講師派遣及び普及啓発研修を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援者のスキルアップ、関係機関との連携強化により、支援体制の強化と相談支援技術の向上が図られた。</li> <li>令和5年度から、『エール』発達障がい者支援センターに強度行動障がい担当の地域支援マネージャーを2名配置し、強度行動障がい児者の支援体制を強化した。</li> </ul>
イ 障害者就業・生活支援センター事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>各圏域の障害者就業・生活支援センターに「生活支援員」、「発達障がい者就労・生活支援員」を配置し、障がい者の就労支援を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者の就労支援においては、就業面と生活面での一体的な支援が必要であり、障害者就業・生活支援センターに配置する生活支援員等は、障がい者の職業生活支援等において、重要な役割を担っている。引き続き、当事業による就労支援に取り組むことが必要である。</li> </ul>
ウ 障がい児等地域療育支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育等支援施設事業として、県内6ヶ所の療育施設において、自宅や保育所等へ訪問し、在宅児童の療育に関する相談及び指導等の支援を実施。</li> <li>地域の保育所・幼稚園、学校等の施設からの訪問ニーズが高く、訪問件数は年々増加している。</li> <li>総合療育センターにおいて、療育等支援施設事業が円滑に実施できるよう、療育等拠点施設事業を実施</li> <li>総合療育センター、鳥取療育園、中部療育園に地域療育担当支援員を1名ずつ配置し、在宅児童・保護者・施設等からの相談に対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>診断まではつかないが、発達の気になる子どもが増えてきており、市町村保健師等とも連携しながら地域で専門的な指導・支援を実施することができた。</li> <li>保育所・幼稚園等、実際に子どもが通っている施設を対象とした支援により、施設職員のスキルアップ及び子どもの支援の充実にもつながっている。</li> </ul>
エ 高次脳機能障がい支援普及事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>高次脳機能障がい者支援拠点を医療法人十字会野島病院に委託設置し、支援コーディネーター1名を配置。支援ネットワークの構築、専門的な相談体制を整備。</li> <li>高次脳機能障害者家族会が実施する相談事業及び一般県民向けの普及啓発事業に対して助成</li> <li>高次脳機能障がいに関する情報や医療機関、事業所等の支援機関を掲載した「高次脳機能障がい支援サイト」を通じて情報提供を継続して実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高次脳機能障がい支援拠点を中心に医療機関や福祉サービス事業所とのネットワークが構築されてきているが、今後さらに強化していくことが必要。</li> <li>高次脳機能障害者家族会が培ってきたネットワークと行動力を活かし、医療機関から相談のあった対象者を関係機関へつなぎ、医療から福祉への連携を促進。</li> <li>支援サイトに支援機関の状況を掲載することにより県民や関係機関に対して支援情報の提供を図った。</li> </ul>

### ②専門性の高い意思疎通支援を行う者の養成研修・派遣事業

項目	状況	評価
手話通訳者養成研修事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話通訳者の養成研修を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話通訳者等は着実に増えているが、鳥取県手話言語条例制定後、手話通訳依頼</li> </ul>

		も増加しており、手話通訳者の養成と通訳技術向上に引き続き取り組む必要がある。
要約筆記者養成研修事業	・要約筆記者の養成研修を実施した。	・要約筆記制度の運用のため必要不可欠な事業であり、聴覚障がい者の情報保障を推進した。
要約筆記者派遣事業	・講演会等における要約筆記者の派遣を実施した。	・聴覚障がい者の情報保障を行い、社会参加等を推進した。
盲ろう者通訳・介助員養成研修	・盲ろう者向け通訳・介助員の養成研修を実施した。	・盲ろう者向け通訳・介助制度の運用のため必要不可欠な事業であり、盲ろう者の社会参加等を推進した。
盲ろう者通訳・介助員派遣事業	・盲ろう者向け通訳・介助員の派遣を実施した。	・盲ろう者の社会参加等を推進した。
失語症者向け意思疎通支援者養成研修	・失語症者向け意思疎通支援者の養成研修を実施した。	・言語機能、音声機能等の障がいのため意思疎通を図ることが困難な障がい者等が自立した社会生活を営むことができるよう、支援者養成を推進した。
失語症者向け意思疎通支援者派遣事業	・失語症者向け意思疎通支援者の派遣を実施した。	・言語機能、音声機能等の障がいのため意思疎通を図ることが困難な障がい者等の社会参加等を推進した。

### ③サービス・相談支援者、指導者育成事業

項目	状況	評価
サービス提供責任者研修	研修実績は、以下の「15 県が実施する地域生活支援事業に係る実績」のとおり。	・指定居宅介護事業所サービス提供責任者等に対し、サービスの質の確保に必要な知識及び技能習得のための研修を実施した。
サービス従業者研修		・障害福祉サービスに従事する者のうち、主に資格取得又は研修修了が要件となる職種以外の職務に従事する者に対し、更なる知識習得のための研修を実施した。
障がい福祉従事者分野別基礎研修		・居宅介護や施設業務などの障害福祉サービスに従事する者で、障がい分野に係る知識習得を希望する者に対し、身体・知的・精神の3つの障がい分野別基礎研修を実施した。
障害程度区分認定調査員等研修		・障害支援区分認定調査員及び市町村審査会委員に対し、養成・現任研修を実施した。
相談支援従事者研修		・相談支援事業に従事する者の技能向上を図るため、初任者研修、現任研修、主任研修、フォローアップ研修及び専門コース別研修を実施した。
同行援護従事者養成研修		・同行援護の従業者、サービス提供責任者等に対し、サービスに必要な知識及び技術を習得するための研修を実施した。
行動援護従事者養成研修		・行動援護の従業者、サービス提供責任者等に対し、サービスに必要な知識及び技術を習得するための研修を実施した。
サービス管理責任者研修		・サービス管理責任者に従事しようとする者あるいは従事する者の技能向上を図るため、基礎研修、更新研修、実践研修及びフォローアップ研修を実施した。
児童発達支援管理責任者研修		・児童発達支援管理責任者に従事しようとする者あるいは従事する者の技

		能向上を図るため、基礎研修、更新研修及びフォローアップ研修を実施した。
障がい者グループホーム世話人研修		・障がい者グループホームにおいて、障がい者に対して直接支援を行う世話人の資質（専門性）を向上させるための研修を実施した。
強度行動障がい者支援研修（基礎、実践、専門）		・障害福祉サービス事業所従業者に対する強度行動障がいの特性・理解、基本的な支援技術習得のための研修を実施した。
障害福祉サービス事業所等課題別研修		・障害福祉サービス従事者等を対象に、設定した課題に関する先駆的事例を学ぶことで、諸課題に対応する人材養成を目的として実施した。
精神障がい関係従事者養成研修事業（地域移行・地域定着支援関係者及び精神科訪問看護管理者・従事者）		・精神障がいの退院支援等に従事する職員に対し、支援に必要な知識及び技術を習得するための研修を実施した。

#### ④任意事業

項目	状況	評価
盲人ホーム運営事業	・盲人ホームの運営費を助成した。	・視覚障がいの者の社会的自立を推進した。
点字・声の広報等発行事業	・「県政だより」等を点字化して発行し、県内の視覚障がい者に無料で配布した。 ・「県政だより」等を音声化し、録音テープに収録・複製して毎月発行し、県内の視覚障がい者に貸出した。	・点字化、音声化資料を作成することで視覚障がいの者の情報アクセス保障に繋がった。
点字による即時情報ネットワーク事業	・日本視覚障害者団体連合（旧日本盲人会連合）の提供する最新の新聞情報等を通信ネットワーク等を利用して情報提供した。	・最新情報を提供することにより、日常生活に必要な情報の周知と社会参加を促進した。
字幕入りビデオライブラリー事業	・利用者からの要望を考慮した字幕入りビデオを制作した。	・利用者のニーズに応じたビデオの制作・貸出を行い、聴覚障がいの者の情報保障を促進した。
障がいのある人のためのパソコンボランティア養成・派遣事業	・障がいの者の社会参加の促進を図るため、パソコン使用に際し必要な指導等を行うパソコンボランティアを養成・派遣を実施した。	・引き続き、事業の周知等を行うことで、障がいの者の社会参加の促進を図っていく。
補助犬育成事業	・障がいの者の社会参加の促進を図るため、補助犬の貸与を実施した。	・引き続き、必要とする視覚障がい者等への貸与を実施していく。
障害者社会参加推進センター設置事業	・障がいの者の社会参加を促進するため、社会福祉法人鳥取県身体障害者福祉協会に委託し、障害者社会参加推進センターを設置・運営。	・障害者社会参加推進センターによる相談、啓発、生活環境改善等の各種事業により、障がいの者の社会参加を推進した。
知的障がい者レクリエーション教室開催事業	・スポーツ・レクリエーション活動を通じて、障がいの者の体力増強、交流、余暇等に資するため、及び障がいの者を普及するため、各種スポーツ・レクリエーション教室を開催した。	・障がい者本人の自ら何かを行うという自立意欲を高め、自己実現に繋がった。
精神障がい者レクリエーション教室開催事業	・県民福祉局で、アルコール健康障害・薬物依存症・ギャンブル等依存症について、家族教室を開催。学習会及び家族の意見交換会（ピアカウンセリング）を実施。	・アルコール健康障害・薬物依存症・ギャンブル等依存症の問題で悩んだり、苦しんだり、心配している家族が、依存症に関する正しい知識を得ることができ、他の家族との話し合いを通じて悩みを共有する

		ことにより不安等の軽減に繋がっているものと判断。
スポーツ振興事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国障害者スポーツ大会に係る鳥取県選手団個人競技選手選考記録会を開催、個人選手の選考を行い、団体競技に係る中・四国ブロック予選会及び全国障害者スポーツ大会への鳥取県選手団の派遣等を実施。</li> <li>・障がい者スポーツ指導員を養成する講習会を開催し指導者の育成等を実施。</li> <li>・鳥取さわやか車いす&amp;湖山池マラソン大会、全日本 Challenged アクアスロン皆生大会の開催に要する費用を助成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の育成、全国障害者スポーツ大会参加などを通じて、障がい者スポーツの振興に向けた取組を実施。</li> <li>・全国障害者スポーツ大会の個人競技の県内予選会の参加数も、増える傾向にあり、障がい者にとって目標、励みとなっている。</li> <li>・また、各種障がい者スポーツ大会の開催の支援により、障がい者に対する理解の促進や健常者と障がい者との交流を促進（県外からの参加者も増加傾向）。</li> </ul>
精神保健福祉普及啓発事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障がい者に対する正しい知識の普及啓発等を図るため、「心の健康フォーラム」及び「心の健康まつり」の開催を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障がい者に対する県民の理解を深め、社会復帰、社会参加を促進した。</li> </ul>

## 15 県が実施する地域生活支援事業に係る実績

### ①専門性の高い相談事業

項目	単位	区分	第6期計画・第2期見込み			備考
			R3年度	R4年度	R5年度	
発達障がい者支援センター事業	拠点設置数	箇所	計画	1	1	県の拠点は1か所(エール)とする
			実績	1	1	
障害者就業・生活支援センター事業	設置数	箇所	計画	3	3	圏域ごとに1か所設置
			実績	3	3	
障がい児等地域療育支援事業	実施施設数	箇所	計画	7	7	東部2、中部2、西部3
			実績	7	7	
高次脳機能障がい支援普及事業	拠点機関数	箇所	計画	1	1	野島病院に拠点設置
			実績	1	1	

### ②専門性の高い意思疎通支援を行う者の養成研修・派遣事業

項目	単位	区分	第6期計画・第2期見込み			備考
			R3年度	R4年度	R5年度	
手話通訳者養成研修事業	受講者数	人	計画	40	40	
			実績	47	49	
	登録者数	人	計画	63	64	
			実績	63	64	
要約筆記者養成研修事業	受講者数	人	計画	30	30	
			実績	27	18	
	登録者数	人	計画	35	40	
			実績	40	41	
要約筆記者派遣事業	派遣件数	件	計画	200	210	220
			実績	239	351	
盲ろう者通訳・介助員養成研修	受講者数	人	計画	20	20	20
			実績	9	8	
盲ろう者通訳・介助員派遣件数	派遣件数	件	計画	500	510	520
			実績	541	798	
失語症者向け意思疎通支援者養成研修	受講者数	人	計画	10	10	10
			実績	9	4	

### ③サービス・相談支援者、指導者育成事業

項目	単位	区分	第6期計画・第2期見込み			備考
			R3年度	R4年度	R5年度	
サービス提供責任者研修	受講者数	人	計画	35	35	35
			実績	20	11	
サービス従業者研修	受講者数	人	計画	40	40	40
			実績	72	36	

障がい福祉従事者分野別基礎研修	受講者数	人	計画	200	200	200	
			実績	122	122		
障害程度区分認定調査員等研修	受講者数	人	計画	80	80	80	
			実績	62	41		
相談支援従事者研修	養成(受講者数)	人	計画	50	50	50	
			実績	48	32		
	現任(受講者数)	人	計画	40	40	40	
			実績	33	29		
	専門コース別研修	人	計画	40	40	40	
			実績	19	14		
同行援護従事者養成研修	受講者数	人	計画	30	30	30	
行動援護従事者養成研修	受講者数	人	計画	40	40	40	
サービス管理責任者研修	基礎(受講者数)	人	計画	110	110	110	第5期計画の計画受講者数を確保
			実績	89	97		
	実践(受講者数)	人	計画	110	110	110	基礎研修受講者数と同等数を確保
			実績	56	54		
	更新(受講者数)	人	計画	300	300	300	平成30年度までにサービス管理責任者研修を受講した者を令和元年度から令和5年度までに更新研修修了となるように配分
			実績	97	96		
児童発達支援管理責任者研修	基礎(受講者数)	人	計画	50	50	50	サービスのニーズの高まりに対応
			実績	36	39		
	実践(受講者数)	人	計画	50	50	50	基礎研修受講者数と同等数を確保
			実績	14	5		
	更新(受講者数)	人	計画	60	60	60	平成30年度までに児童発達支援管理責任者研修を受講した者を令和元年度から令和5年度までに更新研修修了となるように配分
			実績	20	26		
障がい者グループホーム世話人研修	受講者数	人	計画	100	100	100	
強度行動障がい者支援研修(基礎)	受講者数	人	計画	40	40	40	
			実績	94	124		
強度行動障がい者支援研修(実践)	受講者数	人	計画	30	30	30	
			実績	63	87		
強度行動障がい者支援研修(専門)	受講者数	人	計画	20	20	20	
			実績	6	10		
障害福祉サービス事業所等課題別研修	受講者数	人	計画	80	80	80	
			実績	46	31		
精神障がい関係従事者養成研修事業(地域移行・地域定着支援関係者及び精神科訪問看護管理者・従事者)	受講者数	人	計画	60	60	60	
			実績	64	66		

#### ④任意事業

項目	単位	区分	第6期計画・第2期見計画			備考	
			R3年度	R4年度	R5年度		
盲人ホーム運営事業	箇所数	箇所	計画	1	1	1	米子市内に1か所設置
			実績	1	1		
点字・声の広報等発行事業	発行誌種類	誌	計画	30	30	30	
			実績	17	19		
点字による即時情報ネットワーク事業	年間実利用者数	人	計画	35	35	35	
			実績	21	20		
字幕入りビデオライブラリー事業	年間利用件数	人	計画	250	300	350	
			実績	206	270		
障がいのある人のためのパソコンボランティア養成・派遣事業	年間派遣件数	件	計画	100	100	100	
			実績	27	87		
補助犬育成事業	貸与頭数	頭	計画	1	1	1	普及啓発の強化により各年度

			実績	0	1		1頭の貸与を進める
障害者社会参加推進センター設置事業	設置数	箇所	計画	1	1	1	県内に1か所設置
			実績	1	1		
知的障がい者レクリエーション教室開催事業	年間回数	回	計画	15	15	15	
			実績	6	8		
精神障がい者家族教室開催事業	年間回数	回	計画	12	12	12	
			実績	4	3		
スポーツ振興事業	協会新規加盟団体数	団体	計画	22	24	26	
			実績	22	28		
精神保健福祉普及啓発事業	年間回数	回	計画	2	2	2	
			実績	1	1		

## ⑤その他の数値目標

### (1) 教育、文化芸術活動・スポーツ等

項目	数値	
特別支援教育に関する個別の教育支援計画作成率 (%)	現状	84.6% (H25年度)
	中間値	91.6% (H28年度)
		97.8% (R1年度)
	目標	100% (R5年度)
実績	93.2% (R3年度)	
特別支援教育に関する教員研修の受講率 (%)	現状	91.9% (H25年度)
	中間値	96.4% (H30年度)
	目標	100% (R5年度)
	実績	87.6% (R4年度)
特別支援学校教諭免許状保有率 (%)	現状	76.1% (H25年度)
	中間値	81.1% (H28年度)
		92.0% (R1年度)
	目標	95% (R5年度)
実績	94.1% (R4年度)	
障がい者スポーツ指導者等登録者数 (初級障害者スポーツ指導員) (人)	現状	231人 (H28年度)
	中間値	258人 (R1年度)
	目標	400人 (R5年度)
	実績	226人 (R4年度)
障がい者スポーツ指導者等登録者数 (中級障害者スポーツ指導員) (人)	現状	25人 (H28年度)
	中間値	36人 (R1年度)
	目標	40人 (R5年度)
	実績	37人 (R4年度)
障がい者スポーツ指導者等登録者数 (上級障害者スポーツ指導員) (人)	現状	6人 (H28年度)
	中間値	7人 (R1年度)
	目標	10人 (R5年度)
	実績	6人 (R4年度)
障がい者スポーツ指導者等登録者数 (障害者スポーツトレーナー) (人)	現状	0人 (H28年度)
	中間値	2人 (R1年度)

	目標	3人 (R5年度)
	実績	3人 (R4年度)
障がい者スポーツ指導者等登録者数 (障害者スポーツコーチ) (人)	現状	0人 (H28年度)
	中間値	0人 (R1年度)
	目標	2人 (R5年度)
	実績	1人 (R4年度)
障がい者スポーツ指導者等登録者数 (障害者スポーツドクター) (人)	現状	1人 (H28年度)
	中間値	1人 (R1年度)
	目標	3人 (R5年度)
	実績	4人 (R4年度)
全国障害者スポーツ大会メダル獲得率 (%)	現状	55.9% (H25年度)
	中間値	58% (H28年度)
		64% (H30年度)
	目標	60% (R5年度)
実績	75% (R4年度)	
アート活動取組団体数 (団体)	現状	33団体 (H25年度)
	中間値	45団体 (H28年度)
	目標	55団体 (R5年度)
	実績	42団体 (R4年度)
あいサポート・アートとっとり展県内出展数 (点)	現状	309点 (H25年度)
	中間値	470点 (R1年度)
	目標	520点 (R5年度)
	実績	439点 (R4年度)
個展等開催数 (件)	現状	32件 (H26年度)
	中間値	41件 (R1年度)
	目標	45件 (R5年度)
	実績	31件 (R4年度)

## (2) 情報アクセス・コミュニケーション支援

項目	数値	
手話通訳者派遣実績 (団体派遣) (件)	現状	693件 (H25年度)
	中間値	1,048件 (H28年度)
		867件 (R1年度)
	目標	1,400件 (R5年度)
実績	780件 (R4年度)	
手話講座等受講者 (人)	現状	1,242人 (H25年度)
	中間値	1,830人 (H28年度)
		2,176人 (R1年度)
	目標	2,500人 (R5年度)
実績	734人 (R4年度)	



### (3) 生活環境

項目	数値	
一定の旅客施設のバリアフリー化率（鉄軌道駅）（％）	現状	75%（H26年度）
	中間値	100%（H28年度）
		100%（R1年度）
	目標	100%（R5年度）
経過	100%（R4年度）	
都市公園における園路及び広場，駐車場，便所のバリアフリー化率（園路及び広場）（％）	現状	46%（H24年度）
	中間値	49%（H28年度）
		52%（R1年度）
	目標	60%（R5年度）
経過	55%（R4年度）	
都市公園における園路及び広場，駐車場，便所のバリアフリー化率（駐車場）（％）	現状	57%（H24年度）
	中間値	59%（H28年度）
		60%（R1年度）
	目標	62%（R5年度）
経過	60%（R4年度）	
都市公園における園路及び広場，駐車場，便所のバリアフリー化率（便所）（％）	現状	33%（H24年度）
	中間値	36%（H28年度）
		40%（R1年度）
	目標	45%（R5年度）
経過	50%（R4年度）	
車両等のバリアフリー化率（鉄軌道車両のバリアフリー化率）（％）	現状	71%（H25年度）
	中間値	71%（H27年度）
		71%（H30年度）
	目標	71%（R5年度）
経過	71%（R4年度）	
車両等のバリアフリー化率（ノンステップバスの導入率）（％）	現状	49%（H25年度）
	中間値	55%（H27年度）
		76%（R1年度）
目標	85%（R5年度）	
	経過	93%（R4年度）
車両等のバリアフリー化率（リフト付きバス又はスロープ付きバスの導入率（％））	現状	3%（H24年度）
	中間値	3%（H27年度）
		0%（R1年度）
	目標	25%（R5年度）
経過	0%（R4年度）	

福祉タクシー（UDタクシーを含む）の導入台数（台）	現状	72台（H24年度）
	中間値	69台（H27年度）
		256台（R1年度）
	目標	256台（R5年度）
経過	247台（R4年度）	
共同住宅のうち、道路から各戸の玄関までの車椅子・ベビーカーで通行可能な住宅ストックの比率（％）	現状	8.6％（H20年度）
	中間値	7.2％（H28年度）
		10.2％（R1年度）
	目標	28％（R5年度）
経過	10.2％（R4年度）	
高齢者（65歳以上の者）が居住する住宅のバリアフリー化率（高度のバリアフリー化率）（％）	現状	9.3％（H20年度）
	中間値	9.8％（H28年度）
		14.9％（R1年度）
	目標	26％（R5年度）
経過	14.9％（R4年度）	
既存県有施設のバリアフリー化率（％）	現状	55.2％（H26年度）
	中間値	62.1％（H28年度）
		62.1％（R1年度）
	目標	100％（R5年度）
経過	66.7％（R4年度）	
既存市町村有施設のバリアフリー化率（％）	現状	31％（H25年度）
	中間値	31％（H28年度）
		31％（R1年度）
	目標	47％（R5年度）
経過	36.8％（R4年度）	
障がい者等の入居しやすい賃貸住宅の登録戸数（戸）	現状	1,037戸（H25年度）
	中間値	1,306戸（H28年度）
		1,310戸（R1年度）
	目標	1,700戸（R5年度）
経過	1,372戸（R4年度）	

#### （４）雇用・就業等

項目	数値	
産業人材育成センターの修了者における就職率（％）	現状	100％（H25年度）
	中間値	100％（H28年度）
		100％（R1年度）
	目標	80％（R5年度）
実績	100％（R4年度）	
障がい者の委託訓練修了者における就職率（％）	現状	78.2％（H25年度）

	中間値	60% (H28 年度)
		33% (R1 年度)
	目標	80% (R5 年度)
	実績	30% (R4 年度)
就労継続支援B型の平均工賃月額 (円)	現状	17,090 円 (H28 年度)
	中間値	19,481 円 (R1 年度)
	目標	33,000 円 (R5 年度)
	経過	20,378 円 (R4 年度)
一般の民間企業の障がい者雇用率 (%)	現状	2.28% (R1 年度)
	目標	法定雇用率達成 (R5 年度)
	経過	2.39% (R4 年度)
公的機関の障がい者雇用率 知事部局 (企業局含) (%)	現状	2.65% (H26 年度)
	中間値	3.17% (H28 年度)
		3.25% (R1 年度)
	目標	法定雇用率の概ね 1 割を上回ることを目標 (R5 年度)
経過	3.42% (R4 年度)	
公的機関の障がい者雇用率 病院局 (%)	現状	2.43% (H26 年度)
	目標	法定雇用率達成 (R5 年度)
	経過	2.77% (R4 年度)
公的機関の障がい者雇用率 県教育委員会 (%)	現状	2.54% (H26 年度)
	中間値	2.16% (R1 年度)
	目標	法定雇用率達成 (R5 年度)
	経過	2.74% (R4 年度)
公的機関の障がい者雇用率 県警察本部 (%)	現状	2.62% (H26 年度)
	中間値	2.60% (H28 年度)
		2.27% (R1 年度)
	目標	法定雇用率達成 (R5 年度)
経過	3.21% (R4 年度)	
公的機関の障がい者雇用率 市町村 (%)	現状	2.24% (H26 年度)
	中間値	2.34% (H28 年度)
		2.56% (R1 年度)
	目標	法定雇用率達成 (R5 年度)
経過	2.97% (R4 年度)	
障害者就業・生活支援センターにおける就職件数 (利用者の就職件数) (件)	現状	203 件 (H25 年度)
	中間値	203 件 (H28 年度)
		230 件 (R1 年度)
	目標	245 件 (R5 年度)
実績	250 件 (R4 年度)	

障害者職業・生活支援センターにおける半年後定着率（％）	現状	91％（H24年度）
	中間値	85.6％（H27年度）
		85.5％（R1年度）
	目標	80％（R5年度）
実績	89.8％（R4年度）	

#### （5）あいサポート運動の推進等

項目	数値	
あいサポーター数（人）	現状	370,351人（H28年度）
	中間値	544,116人（R1年度）
	目標	575,000人（R5年度）
	経過	624,848人（R4年度）

(資料1) 鳥取県障がい者計画 (H21~H25) の目標及び実績

1 生活支援

○ 地域移行の推進

区分		スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)
訪問系サービスの利用時間数	居宅介護事業、重度訪問介護、行動援護、重度障害者等包括支援	14,791 時間 (H19)	25,345 時間 (H23)	19,217 時間 (H23 年度)
日中活動系サービスのサービス提供量	生活介護	2,464 人日 (H19)	16,831 人日 (H23)	26,676 人日 (H23 年度)
	自立訓練(機能訓練)	17 人日 (H19)	722 人日 (H23)	483 人日 (H23 年度)
	自立訓練(生活訓練)	110 人日 (H19)	1,419 人日 (H23)	1,082 人日 (H23 年度)
療養介護事業の利用者数		16 人 (H19)	230 人 (H23)	33 人 (H23 年度)
児童デイサービス事業のサービス提供量		1,752 人日 (H19)	2,518 人日 (H23)	2,836 人日 (H23 年度)
短期入所事業のサービス提供量		546 人日 (H19)	2,418 人日 (H23)	776 人日 (H23 年度)
共同生活援助事業(グループホーム)、共同生活介護事業(ケアホーム)の利用者数		342 人 (H19)	552 人 (H23)	569 人 (H23 年度)
移動支援		2,942 時間 (H19)	8,582 時間 (H23)	3,051 時間 (H23 年度)
相談支援事業の利用者数		21 人 (H19)	228 人 (H23)	69 人 (H23 年度)
福祉施設入所者数		1,134 人 (H19)	1,045 人 (H23)	1030 人
退院可能精神障がい者数		204 人 (H20. 6. 30)	170 人 (H23)	267 人 (H25. 6)

2 生活環境

(1) 住宅・建物のバリアフリー化

区分	スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)
住宅のバリアフリー化率	44.8% (H15 年)	75.0% (H27 年)	—
障がい者等の入居しやすい賃貸住宅の登録戸数	7 戸 (H15 年)	130 戸 (H27 年)	589 戸
新築、増改築される民間建築物の適合率	33%	79%	100% (H25 年度)
新築、増改築される公共建築物の適合率	71%	97%	100% (H25 年度)
既存県有施設のバリアフリー率	32%	64%	—
既存市町村有施設のバリアフリー化率	21%	52%	31%
県営住宅のバリアフリー化	100% (H19 年度末)	100%	100%

(2) 公共交通機関、歩行空間等のバリアフリー化の推進

区分		スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)
旅客施設のバリアフリー化		50% (H19 年度)	100%	100%
バス車両のバリアフリー化 (低床バス・ノンステップバス)	低床バス	32.4% (H19 年度)	55%	66%
	ノンステップバス	17.9% (H19 年度)	40%	49%

(3) 都市公園のバリアフリー化

区分	スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)
便所の設置された都市公園のうち、便所がバリアフリー化されたものの割合	26% (H19 年度)	約 30% (H22 年度)	33% (H24 年度)

#### (4) 安全な交通の確保

区分	スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)
バリアフリー対応型信号機の整備	92.1% (H19 年度末)	100%	100%

#### (5) 防災・防犯対策の推進

区分	スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)
災害時要援護者支援プラン（個別計画）の策定	0% (H19 年度)	100% (H21 年度)	16% (H25. 4)

### 3 教育・育成

#### (1) 一貫した相談支援体制の確立

区分	スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)
個別の教育支援計画の策定	公立幼・小・中・高等学校の個別 の教育支援計画の策定率		84.6%
	20%	80%	

#### (2) 療育体制等の整備

区分	スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)
全圏域での重症心身障がい児・者の日中支援の実施	2 圏域	3 圏域	2 圏域 (H23 年度末)
放課後児童クラブにおける障がい児の受け入れを行う市町村	89% <16 市町村>	100% <放課後児童ク ラブを設置す る市町村>	100%

#### (3) 特別支援教育の推進

区分	スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)
特別支援学校等への看護師等の配置	100%	100%	100%
巡回相談の充実	100%	100%	100%
各圏域での発達障がい児に対する拠点の整備	1 カ所	3 か所	3 ケ所

#### (4) 教職員等の専門性の向上

区分	スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)
特別支援学校教諭免許状保有率	特別支援学校教員		76%
	79%	90%	
学習障がい（LD）、注意欠陥多動性障がい（ADHD）、自閉症等について専門性を有する教員の養成	42人(学習障 害等専門研修 派遣者数) 18人(広汎性 発達障害等専 門研修派遣者 数)	100人(学習障 害等専門研修 派遣者数及び 広汎性発達障 害等専門研修 派遣者数)	87人(学習障害 等専門研修派 遣者数及び広 汎性発達障害 等専門研修派 遣者数)

#### (5) 社会的及び職業的自立の促進

区分	スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)
特別支援学校高等部一般就労希望者・福祉的就労希望者の就職率・就労率	73%	77%	90%

### 4 雇用・就業

#### (1) 障がい者の雇用の場の拡大

区分	スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)	
法定雇用率の達成状況（県）	知事部局・企業局	2.27% (H20. 6. 1)	2.1%以上	2.39% (H25. 6)
	病院局	2.31% (H20. 6. 1)	2.1%以上	2.6% (H25. 6)
	教育委員会	1.49% (H20. 6. 1)	2.0%以上	1.83% (H25. 6)
	警察本部	1.71% (H20. 6. 1)	2.1%以上	1.99% (H25. 6) ※達成済み
法定雇用率の達成状況（市町村等の機関）	2.29% (H20. 6. 1)	2.6%以上	2.42% (H25. 6)	
法定雇用率の達成状況（民間企業）	1.78% (H20. 6. 1)	1.8%以上	1.77%	
納付金支払い企業・団体数	15社	0社	29社	
法定雇用率未達成企業の割合	42.1%	38.2%	46.40%	
障がい者雇用数	1,515人 (H20. 10 月末)	1,700人	2,347人 (H26. 3 末)	
チャレンジ雇用の推進	4人	8人	28人	
法定雇用率が適用される規模（計画策定当時は56人以上）の企業で雇用される精神障がい者	12人 (H20. 6. 1)	95人	82人 (H25. 6)	

#### (2) 総合的な連携・支援の推進

区分	スタート時 (H20. 4. 1)	目標数値 (H25 年度)	実績 (H25 年度末)	
福祉施設から一般就労への年間移行者数	27人 (H19 年度)	64人 (H23 年度)	97人	
就労移行支援事業の利用者数	400人日 (H19 年度)	3,192人日 (H23 年度)	2,134人日 (H23 年度)	
就労継続支援の利用者数	A型	933人日 (H19 年度)	3,040人日 (H23 年度)	4,809人日 (H23 年度)
	B型	2,446人日 (H19 年度)	22,582人日 (H23 年度)	32,159人日 (H23 年度)
公共職業安定所経由による福祉施設利用者の就職件数	14件 (H19 年度)	64件 (H23 年度)	37件	
ハローワークを通じた障がい者の就職件数	333人 (H19 年度)	1,750人	534人	

障害者試行雇用事業(トライアル雇用)の開始者数	4人 (H19年度)	32人 (H23年度)	3人
職場適用援助者(ジョブコーチ)による支援の対象者数	7人 (H19年度)	32人 (H23年度)	14人
障害者就業・生活支援センターの支援対象者数	16人 (H19年度)	64人 (H23年度)	36人
障害者就業・生活支援センターの設置箇所数	3か所 (H19年度)	3か所 (H23年度)	3ヶ所
障害者就業・生活支援センターの就職件数	162件 (H19年度)	160件	203件
障害者就業・生活支援センターの就職率	34.4% (H19年度)	50%	38.6%
授産施設等(※就労継続支援B型事業所)の平均工賃月額	12,641円 (H19年度)	33,000円以上 (H23年度)	17,090円 (H25年度)

### (3) 総合的な連携・支援の推進

区分	スタート時 (H20.4.1)	目標数値 (H25年度)	実績 (H25年度末)
障がいのある人の態様に応じた多様な委託訓練事業の受講者数	0人 (H19年度)	19人 (H23年度)	1人

## 5 保健・医療

### ○ 特定健康診査の受診率

区分	スタート時 (H20.4.1)	目標数値 (H25年度)	実績 (H25年度末)
特定健康診査の受診率	37.0% (H19年度)	70% (H24年度)	36.8% (H24年度)

## 6 情報・コミュニケーション

### ○ 手話通訳者登録者数

区分	スタート時 (H20.4.1)	目標数値 (H25年度)	実績 (H25年度末)
手話通訳者登録者数	20人 (H19年度)	33人 (H23年度)	35人



(資料2) 第4期鳥取県障がい福祉計画に規定した施策の評価・実績

1 入所施設の入所者の地域生活への移行

【表1：入所施設の入所者の地域生活への移行の実績】

項目	単位	目標値	実績		概要
		29年度	27年度	28年度	
地域移行者数	人	147	7	18	施設入所から自宅、グループホーム等へ移行する者の数
施設入所者の削減数	人	67	1	15	

項目	状況	評価
ア 住まいの場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8件（住居数）の施設整備費の助成により、グループホームの新規開設を促進。 ※整備数は H28 年度予定分含む（特に記述がない限り、以下施設・設備整備費関連項目同様）</li> <li>・ 夜間支援員の配置に係る補助事業等により、147 住居に夜間支援体制を確保。</li> <li>・ 県営住宅の募集において、障がい者世帯を優先入居の対象とし、優先的に取り扱うこととしている。</li> <li>・ H24.11 に鳥取県居住支援協議会を設立し、あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録・公開すると共に、2名の専任相談員による情報提供及び相談対応を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業実施により、地域でのサービス提供基盤の整備や住まいの場の確保が進んでいるが、今後も地域生活を行う上での基盤整備を推進していくことが必要。</li> <li>・ H27 年度では 34 世帯、H28 年度では 32 世帯の障がい者世帯が安心賃貸支援事業により入居決定。あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録件数は増加してきたが、普及啓発、情報提供及び不動産事業者・支援団体に対する協力依頼等により、今後も登録の拡大を推進していくことが必要。</li> </ul>
イ 日中活動の場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 件の施設整備に助成。</li> <li>・ 工賃 3 倍計画事業を行うとともに、ハートフルサポート事業や農福連携推進事業等の実施により、工賃水準の引上げを支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業実施により、日中活動事業所の整備が図られているが、今後もニーズへの対応が必要となるサービスにおいては、引き続き基盤整備を推進していくことが必要。</li> <li>・ 工賃の向上に関する取組は、引き続き推進していくことが必要。</li> </ul>
ウ 障害福祉サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10 件の障害福祉サービス事業所の施設整備費に助成</li> <li>・ サービスの充実のため、「サービス提供責任者研修」、「障害福祉サービス従業者障害分野別基礎研修」、「相談支援従事者研修」「強度行動障がい者支援研修」、「サービス管理責任者（フォローアップ）」等を継続して実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業実施により、障害福祉サービスの充実が進んでいるが、引き続き基盤整備等を推進していくことが必要。</li> <li>・ 新たな研修需要にも適切に対応しており、サービス充実に一定の効果があると判断。</li> <li>・ 今後も高齢の障がい者や行動障がいのある障がい者への支援に関する研修の充実が必要。</li> </ul>
エ 相談支援体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域生活支援センターを全市町村が設置、県はその経費の 4 分の 1 を助成。</li> <li>・ 相談支援従事者の技術向上を図るため、初任者研修、現任研修及び専門コース別研修を実施。</li> <li>・ 要請に基づき、市町村等の自立支援協議会へアドバイザーを派遣し、協議会の取組に助言。</li> <li>・ 身体障害者・知的障害者相談員の資質の向上や活動の強化を促進するため、研修会を実施。</li> <li>・ 「人権尊重の社会づくり相談ネットワーク」として人権に関する総合的な相談窓口を東中西部に設置し、相談者の問題解決に対応しており、相談件数は年々増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい者のある方の地域生活を推進するためにも、各地域における相談支援体制の確保・充実が必要であり、各事業を着実に継続実施していく必要がある。</li> <li>・ 「人権尊重の社会づくり相談ネットワーク」における相談窓口については、相談件数も増えており、問題解決に向け、さらに他の相談機関との連携を進めるとともに相談員のスキル向上が必要。</li> </ul>

<p>オ 啓発・広報活動の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいサポート運動（H21年11月から実施）により、各地で研修等を行うことにより、普及・啓発の取組を推進。また、他県との連携も進み、多くの県と連携協定を締結して共に、共生社会実現へ取り組んでいる。</li> <li>・障害者週間ポスター、体験作文を募集し、優秀作品を表彰。</li> <li>・障がい者に関する情報をまとめた「よりよい暮らしのために」を障害者手帳交付時（新規）に配布。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいサポート運動は、県内に留まらず全国へと広がりを見せており、多くの者に一定の理解と賛同を得られているものと評価。（H29年10月末現在）</li> <li>・あいサポーター数：390,760人（うち県内70,122人）</li> <li>・研修回数：4,825回（うち県内1,449回）</li> </ul>
<p>カ その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活を体験できる場の提供として「地域生活体験事業」を実施する市町村に助成。</li> <li>・「日中一時支援（地域生活支援事業）」を行う市町村に対し、県はその経費の4分の1を助成。</li> <li>・県営住宅の募集において、障がい者世帯を優先入居の対象とし、優先的に取り扱うこととしている。</li> <li>・H24.11に鳥取県居住支援協議会を設立し、あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録・公開すると共に、2名の専任相談員による情報提供及び相談対応を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の活用により実際に地域移行するケースは少ないが、本人の動機付け等のため体験できる場の提供は必要。</li> <li>・全市町村で日中一時支援事業を実施しており、今後も引き続き、事業実施が必要。</li> <li>・あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録件数は増加してきたが、普及啓発、情報提供及び不動産事業者・支援団体に対する協力依頼等により、今後も登録の拡大を推進していくことが必要。</li> </ul>

## 2 入院中の精神障がい者の地域生活への移行

【表2：入院中の精神障がい者の地域生活への移行の実績】

項目	単位	目標値	実績		摘要
		29年度	27年度	28年度	
入院後3ヶ月時点の平均退院率	%	64	57.7	56.5	毎年度6月に入院した患者の入院後3か月時点の退院率で実績把握
入院後3ヶ月時点の平均退院率	%	91	70.0	67.3	毎年度6月に入院した患者の入院後1年時点の退院率で実績把握
在院期間1年以上の長期在院者数	人	912人 以下	999	977	

項目	状況	評価
<p>ア 住まいの場の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホーム等の整備により、地域での居住の場を確保。（「1-ア 住まいの場の確保」参照）</li> <li>・県営住宅の募集において、精神障がい者世帯を優先入居の対象としており、優先的に選考する取組を行っている。</li> <li>・H24.11に鳥取県居住支援協議会を設立し、あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録・公開すると共に、2名の専任相談員による情報提供及び相談対応を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホーム等の整備については、「1-ア 住まいの場の確保」参照。</li> <li>・今後も優先入居の取扱いを継続し、精神障がい者の住まいの確保に取り組む。</li> <li>・あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録件数は増加してきたが、普及啓発、情報提供及び不動産事業者・支援団体に対する協力依頼等により、今後も登録の拡大を推進していくことが必要。</li> </ul>
<p>イ 地域生活支援の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援従事者の研修等により、相談支援体制を充実。（「1-エ 相談支援体制の確保」参照）</li> <li>・精神障がい者の休日・夜間における相談・診療・入院応需に対応するため、県内の精神科病院を「精神科救急医療施設」に指定し、圏域ごとに輪番制による体制を確保。また、圏域ごとに「精神科救急医療体制連絡調整会議」を開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談体制の充実については、「1-エ 相談支援体制の確保」参照。</li> <li>・県内精神科病院の協力により、24時間、365日の精神科救急医療体制を確保。</li> </ul>
<p>ウ 医療の質の向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急隊が速やかに傷病者を医療機関に搬送で</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内精神科病院の協力により、24時間、365</li> </ul>

上（早期発見、支援体制の確保）	<ul style="list-style-type: none"> <li>きるようにするため、精神疾患の項目を設けた「傷病者の搬送及び受入れに関する実施基準」を策定し、H23年度から運用を開始。</li> <li>「精神科救急医療施設」については、イを参照。</li> </ul>	日の精神科救急医療体制を確保。
エ 精神疾患・障がいに関する知識の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいサポート運動の中で、「精神障がい」についても取り上げ、県民の精神障がい者への理解を促進。</li> <li>「心の健康まつり」や「心の健康フォーラム」等を開催し、精神障がい者に対する県民の理解を深め、社会復帰及び社会参加を促進。</li> <li>当事者団体が実施する普及啓発事業（精神障がい、てんかん、高次脳機能障がい、依存症等）について、運営費を助成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の実施により、県民への精神障がいに対する正しい理解・知識の普及、当事者の社会復帰・社会参加の促進が図られていると判断。</li> </ul>
オ 精神障がい者地域移行・地域定着支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域ごとに地域移行推進会議、地域移行連絡会等を開催し、地域移行に関する情報提供及び理解を促進。</li> <li>精神科医療機関や訪問看護ステーション等のスタッフを対象に研修会を開催し、人材育成を実施。</li> <li>精神科病院の入院患者の退院意欲向上のため、入院患者と外部ボランティアとの交流会を開催。</li> <li>退院可能な入院患者に対し、病院外活動における同行支援等の個別支援を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関に情報提供を行うことで、地域移行への意識付けや関係機関の連携強化に繋がった。</li> <li>個別支援や退院促進事業により、一部の者は地域移行へつながった。</li> </ul>

### 3 福祉施設等から一般就労への移行

【表3：福祉施設等から一般就労への移行の実績】

項目	単位	目標値	実績		摘要
		29年度	27年度	28年度	
一般就労移行者数	人	138	99	84	福祉就労から一般就労する者の数
ハローワークのチーム支援による福祉施設利用者の支援	人	138	39	41	
障がいのある人の態様に応じた多様な委託訓練事業の受講者数	人	14	3	5	
障害者試行雇用事業（トライアル雇用）の開始者数	人	42	13	15	
職場適応援助者（ジョブコーチ）による支援の対象者数	人	69	16	24	
障害者就業・生活支援センター事業の支援対象者数	人	64	20	37	

項目	状況	評価
1 障がい者雇用の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>商工団体、鳥取障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、障がい福祉サービス事業所、労働局及び県の関係機関で構成する「障がい者雇用推進実施会議（座長：副知事）」を開催し、障がい者の新規雇用1,000人創出に向けた取組を推進するための意見交換を行い、関係機関の連携を図った。</li> <li>労働局、（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構、県で組織するプロジェクトリーダー会議を年9回開催し、障がい者の雇用促進等について検討を行った。</li> <li>障がい者雇用のモデルとなる県内企業の好事例をまとめた冊子「ともに働く仲間のために」や、精神・発達障がい者に対する職場での配慮事項をまとめたガイドブック「精神・発達障がい者とともに働くための接し方」を作成して企業等に配布した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生や企業関係者を招聘しての体験発表を就労促進セミナー等で行うことで、生徒や保護者の企業就労に向けた意識高揚につながった。</li> <li>職場定着支援員の配置は、障がい者の職場定着に対して極めて有効と評価。</li> <li>各種取組により、障がい者雇用率達成に向けて一定程度は前進しているが、伸び悩みも見られるため、関係機関の意見も聞きつつ、効果的な取組が求められている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「障がい者雇用アドバイザー（県非常勤職員）」を新たに県庁に1名配置し、法定雇用率未達成企業をはじめとした企業トップに対し、障がい者新規雇用の働きかけや相談対応を行った。平成28年度は、187社を訪問、うち80社から障がい者雇用に前向きな回答を得た。</li> <li>・障がい者自らの起業や当初から障がい者を雇用して創業を行う者2者に対して、その費用の一部を補助した。（2者のうち、1者は障がい者自らの起業、1者は起業に伴い障がい者1名を雇用）</li> <li>・障がい者雇用を検討している企業等に対して、県内2か所で「障がい者雇用企業見学交流会」を開催し、更なる障がい者雇用への理解促進を図った。</li> <li>・聴覚障がい者の就職活動や就業を支援するため、20回にわたって手話通訳者を企業等に派遣した。また、平成29年度から、新たに職場実習も手話通訳者等の派遣対象とするよう制度拡充を行った。</li> </ul>	
<p>2 特別支援学校における企業等と連携した職業教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校就労促進事業により、就労サポーターを県内3名配置し、就労促進や職場開拓、作業学習への助言等を行った。また、琴の浦高等特別支援学校に定着支援コーディネーターを2名配置し、学校から職場への円滑な移行と定着を図った。また、各圏域毎に就労促進セミナーを開催し、企業への理解啓発を進めた。平成29年度において、就労サポーター（2名）、定着支援コーディネーター（2名）、就労・定着支援員（2名）計6名を配置し、役割分担をしながら、在学中から卒業後までの就労促進及び職場定着支援を行っているところだが、今後役割の整理等を行い、配置の在り方等を検討する予定である。また、労働局が主催するプロジェクトリーダー会議に参画し、関係機関との連携強化に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労サポーターの配置や定着支援コーディネーターの配置は、生徒の就職率向上に大きく貢献している。全圏域の就職希望者が在籍する琴の浦が開校し新たな役割を果たしており、今後も就労サポーターを活用した特別支援教育と企業との連携強化が必要。</li> </ul>
<p>3 総合的な就労支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各障害者就業・生活支援センターに、各担当職員（職場開拓、定着支援、就業支援、生活支援、発達障がい者就労支援等）を配置し、障がい者の就業支援を行った。【職場開拓支援員配置事業等】</li> <li>・障害者就業・生活支援センター登録者及び就労移行支援事業等の利用者の職業訓練機会提供に資する取り組みとして、各イベント及び担当者会議にて、職業訓練コースの周知を図っている。</li> <li>・県中・西部地区に県版ジョブコーチセンター（ジョブコーチ1名配置）を設置し、更なるジョブコーチ支援を行う体制を強化した。</li> <li>・新たに訪問型ジョブコーチを配置する社会福祉法人等5事業所に対して、その活動費の一部を助成することで、訪問型ジョブコーチの増員を行うとともに、支援する障がい者の数を増やし、職場定着の体制を強化した。</li> <li>・新たに訪問型ジョブコーチの資格取得研修に職員を派遣する社会福祉法人1者に対して、費用（旅費）の一部を支給し、ジョブコーチの資格取得を支援した。</li> <li>・新たにジョブコーチ制度の仕組みや有効性を周知することで、ジョブコーチの利用促進を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者に最も身近な就労支援を行う者の就労支援スキルの向上は重要。</li> <li>・利用者のニーズや個性に応じた適切な就業支援が行われるよう引き続き研修等を通じた啓発を図るとともに、就労継続支援事業所に対し一般就労へ向けてインセンティブを与える施策が必要。</li> <li>・障がい者雇用の職場定着に関して極めて有効。</li> <li>・ジョブコーチセミナーに参加した教員は就労支援の専門的な知識技能を身につけ、生徒の学習指導や学校業務にその専門性を還元している。</li> <li>・障がい者雇用のニーズに応えるためには、「連携」は必須。今後も連携を推し進めていく。</li> </ul>

	<p>図ることを目的とした研修会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者一般就労移行ネットワーク会議により、支援者が連携し、一般就労移行しやすい環境を整えた。</li> </ul>	
4 障がい特性に応じた就労支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障がい者雇用をマンガで解説した「精神障がい者を知りともに働く職場づくり」や、精神・発達障がい者に対する職場での配慮事項をまとめたガイドブック「精神・発達障がい者とともに働くための接し方」を新たに作成して企業等に配布した。【障がい者雇用推進啓発事業】</li> <li>・「支えあうとっとり精神障がい者雇用推進フォーラム」及び「障がいがある方と共に働くセミナー」を鳥取労働局等と共同開催し、改正障害者雇用促進法等の周知を行い、円滑な法の施行及び障がい者雇用について気運醸成を行った。</li> <li>・各障害者就業・生活支援センターに職場定着支援員及び職場開拓支援員を配置し、職場実習先の開拓を図るとともに、障がい者のニーズに沿った企業での就労についてマッチングを行った。</li> <li>・県東・中・西部地区の圏域毎に関係機関により発達障がい者を支える「支えるネット」を構築し、就労希望のある発達障がい者に対して、関係機関が連携して就労支援を行う体制を構築した。</li> <li>・日本財団との共同プロジェクトにより、発達障がい者等の若年就職困難者に特化した就労訓練を行う「オフィス型ジョブトレーニングセンタークロスジョブ米子」を開設した。</li> <li>・中国四国農政局が主宰している、中国四国農業の障がい者雇用促進情報ネットワーク加入し、各圏域PTに対して交付金などの関連情報の提供を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務を担当する部局の相互の緊密な連携を確保し、施策を検討しており、極めて有効に機能していると評価。</li> <li>・農家のニーズと就労継続支援事業所が提供できる労働力（員数、対応可能作業・時期）は必ずしも一致しないため、ミスマッチが生じており、お互いが求めるものを事前によく把握しマッチングを進めることが必要。</li> <li>・農作業のミスマッチを減らすために、圏域単位で行っている現在のマッチングを圏域を越えたマッチング方法（課題解決）を図ることも必要。</li> </ul>
5 福祉的就労の底上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法に基づき調達方針を定め、当該年度の調達目標額を設定した。また、障害福祉サービス事業所に対する、ハートフルサポート事業（無利子融資、新商品開発補助、協働連携企業補助）を行うとともに、国の社会福祉施設等施設整備補助金により、工賃向上環境の向上に努めた。</li> <li>・工賃向上環境強化事業により、商品力の向上、販路の確保を図った。</li> <li>・障がい者一般就労移行支援事業により、実習受入企業と実習受講者のそれぞれに、1日当1,000円の謝金支給の支援を行った。</li> <li>・とっとりモデルの共同受注体制構築事業により、複数の障害福祉サービス事業所が作業可能な共同作業場を設置、運営し、大量受注を可能とする環境を整えた。</li> <li>・農福連携推進事業により、障がい者と農家とのマッチングや自主農業の推進を進めた。を行った。また、農福連携マルシェ促進事業により、農福連携を広く紹介した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工賃3倍計画事業を受託実施する鳥取県就労事業振興センターによる事業実施が着実に進み、工賃向上に貢献。</li> <li>・これまでは、全就労継続支援事業所を対象に同じ支援策を行ってきたが、個々の事業所の経営理念や経営方針、目指す目標により類型化した効果的な支援を検討。</li> <li>・物品調達時の配慮は、福祉施設等の受注機会の増大が図られ、職員の意識の高揚にもつながるとともに、官公需における障がい者の工賃アップに寄与</li> <li>・結果として工賃実績は、H18年度工賃実績（10,983円）から着実に増加している。</li> </ul>

#### 4 障害福祉サービス等の確保策

項目	状況	評価
(1) 居宅介護・重度訪問介護・同行援護、行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス提供職員に対し、サービス提供責任者等研修、行動援護従業者養成研修、同行援護従業者養成研修等を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な障害福祉サービスを提供するために必要となる人材の確保、資質の向上に一定の効果あり。</li> </ul>

<p>援護・重度障害者等包括支援</p>	<p>・重度訪問介護等に係る国庫負担基準を超過する市町村に対する助成事業を実施。</p>	
<p>(2) 生活介護</p>	<p>・2件の施設・設備整備に助成。 ・施設整備等の希望を聞く際に、制度の内容や助成制度の情報提供を、該当する全法人に対し行い、その中で事業の意向等の把握に努めた。</p>	<p>・事業の実施により、基盤確保、利用者の環境改善等が図られた。 ・施設整備は、施設入所者の地域移行の流れの中で日中支援の場としてサービスの需要が増えていくと考えられ、引き続き基盤整備を図っていくために必要。</p>
<p>(3) 自立訓練 (機能訓練)</p>	<p>・施設整備等の希望を聞く際に、制度の内容や助成制度の情報提供を、該当する全法人に対し行い、その中で事業の意向等の把握に努めた。</p>	<p>・事業所数としては少ないながらも、必要な資源であることから、本事業を行っていくことが必要。</p>
<p>(4) 自立訓練 (生活訓練)</p>	<p>・施設整備等の希望を聞く際に、制度の内容や助成制度の情報提供を、該当する全法人に対し行い、その中で事業の意向等の把握に努めた。</p>	<p>・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。</p>
<p>(5) 就労移行支援</p>	<p>・施設整備等の希望を聞く際に、制度の内容や助成制度の情報提供を、該当する全法人に対し行い、その中で事業の意向等の把握に努めた。</p>	<p>・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。</p>
<p>(6) 就労継続支援(A型)</p>	<p>・施設整備等の希望を聞く際に、制度の内容や助成制度の情報提供を、該当する全法人に対し行い、その中で事業の意向等の把握に努めた。</p>	<p>・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。</p>
<p>(7) 就労継続支援(B型)</p>	<p>・1件の施設・設備整備に助成。 ・施設整備等の希望を聞く際に、制度の内容や助成制度の情報提供を、該当する全法人に対し行い、その中で事業の意向等の把握に努めた。</p>	<p>・事業の実施により、基盤確保、利用者の環境改善等が図られた。</p>
<p>(8) 療養介護</p>	<p>・施設整備等の希望を聞く際に、制度の内容や助成制度の情報提供を、該当する全法人に対し行い、その中で事業の意向等の把握に努めた。</p>	<p>・必ずしも施設整備のニーズは高くないが、事業を継続することは必要。</p>
<p>(9) 短期入所</p>	<p>・3件の設備整備に助成。 ・施設整備等の希望を聞く際に、制度の内容や助成制度の情報提供を、該当する全法人に対し行い、その中で事業の意向等の把握に努めた。</p>	<p>・事業の実施により、基盤確保、利用者の環境改善等が図られた。 ・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。</p>
<p>(10) 共同生活援助(グループホーム)</p>	<p>・施設整備については、「1-ア 住まいの場の確保」と同様。</p>	<p>・施設整備については、「1-ア 住まいの場の確保」と同様。</p>
<p>(11) 施設入所支援</p>	<p>・1件の施設整備に助成。 ・グループホーム等の整備については、「1-ア 住まいの場の確保」と同様。</p>	<p>・グループホーム等の整備については、「1-ア 住まいの場の確保」と同様</p>
<p>(12) 計画相談支援・地域移行支援・地域定着支援</p>	<p>・地域生活支援事業(障がい者福祉従業者等研修事業)により相談支援専門員の数を増やしつつ、フォローアップ研修や現任研修などで資質向上を図ることにより、計画相談支援を利用できる環境を整えた。 ○相談支援専門員初任者研修 受講56人 ○相談支援専門員現任研修 受講38人 ○相談支援専門員フォローアップ研修 受講34人(いずれもH28年度実績)</p>	<p>・研修修了者が増加していること、受講者へのアンケート結果もおおむね評価が高いことから、サービスの充実に一定の効果があると判断。 ・今後は県地域自立支援協議会において人材育成に関する検討を行い、人材育成ビジョンの策定を進める。</p>
<p>(13) 移動支援</p>	<p>・移動支援事業を実施する市町村に対し、県はその経費の4分の1を助成</p>	<p>・利用ニーズの高い事業であり、県内全市町村での実施を評価。今後も継続実施が必要。</p>

## 5 障害福祉サービスに従事する者の確保、資質の向上等

項目	状況	評価
<p>(1) サービス提供に係る人材の研修</p>	<p>・サービス管理責任者、相談支援従業者、居宅介護等従業者、サービス提供職員等に対する研修を実施</p>	<p>・おおむね一定の修了者数を確保できており、サービスの充実に寄与していると判断。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員等によるたん吸引の実施のための研修を実施。</li> <li>・強度行動障がい支援研修参加に係る費用の助成を実施。</li> </ul>	
(2) 障害福祉サービス等の事業者に対する第三者の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県社協実施の研修会等で当該事業を周知。</li> <li>・評価事業の周知及び受審促進を行うため、評価実績のある施設を県のホームページへ掲載。</li> <li>・社会福祉施設等の運営基準について定めた条例の中で、第三者評価の受審を努力義務化した。</li> <li>・社会福祉法人の指導監査において、第三者評価の受審を助言した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの質の評価を第三者において行い、サービスの向上を行うために有効な事業だが、評価の受審は任意であること、有償であることから、件数があまり伸びていない状況は変わらず、引き続き、様々な機会を捉えて受審を呼びかけることが必要。</li> </ul>
(3) コンプライアンスの遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H24年4月から全事業者に対して業務管理体制の整備を義務づけ、法令遵守の体制の整備について、定期的に指導・監督を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務管理体制の整備により、事業者の法令遵守に係る責任意識が生じた。</li> </ul>
(5) 障がいのある人の権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村が行った成年後見制度の申立てに要する経費及び後見人等の報酬に係る助成額について、その4分の1を助成。</li> <li>・利用者及び事業者で対応困難な、福祉サービスに関する苦情を解決するために、県社協に設置された運営適正化委員会の運営を助成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの利用に際し、事業者と利用者が対等の関係で契約を締結するが、一方が判断能力不十分である場合には、自己選択・自己決定に関して支援が必要であることから、当該事業が一定の役割を果たしていると判断。</li> <li>・事業所の責任者や担当職員に直接言いにくい場合や事業所と苦情申出者との間で解決が困難な場合に、運営適正化委員会に申し出ることにより、適切な苦情解決を図ることが可能。</li> </ul>

## 6 県が実施する地域生活支援事業

### (1) 専門性の高い相談支援事業

項目	状況	評価
ア 発達障がい者支援センター事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ライフステージの発達障がいのある人やその家族からの育児、就学、移行支援、就労、自立した地域生活等に関する相談に応じ、指導、助言、情報提供を実施。</li> <li>・特に家族支援の一環として、ペアレントメンターを積極的に活用。</li> <li>・市町村の依頼に基づき、保育所、親子教室等を巡回し、当該職員に対して指導・助言及び情報提供を実施。</li> <li>・また、強度行動障害者が入所する施設職員への助言、情報提供を実施。</li> <li>・普及啓発・研修として、トレーニングセミナー、研修会を実施し地域で核となる人材を養成。</li> <li>・ペアレントメンターの支援技術の向上を図るため、フォローアップ研修等を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村に対する技術的援助や保育士等を対象とした人材育成、関係機関との連携強化により、着実に支援体制の強化が図られている。</li> <li>・ペアレントメンターの相談支援技術の向上が図られた。</li> <li>・相談支援対象者が、乳幼児期から学齢期、成人期に移行し、相談内容も複雑・多様化傾向にあり、職員の相談業務におけるスキルアップが必要。</li> <li>・一貫した支援体制の整備や成人期の発達障がい者への支援者育成等が喫緊の課題である。</li> </ul>
イ 障害者就業・生活支援センター事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者就業・生活支援センターに「生活支援担当職員」を各1名配置。H24年度から発達障がい者就労・生活支援員を東部圏域と西部圏域に各1名配置。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの就労支援施策の中でも、支援策が手薄であった発達障がい者の就労及び生活の支援の充実を図るための支援員を配置し、発達障がい者の職業生活における自立支援の役割を果たしている。</li> </ul>
ウ 聴覚障害者相談員設置事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各圏域に聴覚障がい者相談員を1名配置し、相談事業を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話通訳者派遣事業と連携をとりながら、ある程度相談ニーズの把握ができています。</li> </ul>
エ 障がい児等地域療育支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育等支援施設事業として、県内6ヶ所の療育施設において、自宅や保育所等へ訪問し、在宅児童の療育に関する相談及び指導等の支援を実施。</li> <li>・地域の保育所・幼稚園、学校等の施設からの訪問ニーズが高く、訪問件数は年々増加している。</li> <li>・総合療育センターにおいて、療育等支援施設事業が円滑に実施できるよう、療育等拠点施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診断まではつかないが、発達の気になる子どもが増えてきており、市町村保健師等とも連携しながら地域で専門的な指導・支援を実施することができた。</li> <li>・保育所・幼稚園等、実際に子どもが通っている施設を対象とした支援により、施設職員のスキルアップ及び子どもの支援の充実にもつながっている。</li> <li>・今後は、保育所等訪問支援事業との整理が必</li> </ul>

	<p>設事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合療育センター、鳥取療育園、中部療育園に地域療育担当支援員を1名ずつ配置し、在宅児童・保護者・施設等からの相談に対応した。</li> </ul>	要。
オ 高次脳機能障がい支援普及事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能障がい者支援拠点を引き続き鳥取大学医学部附属病院（脳神経外科教室）に委託設置し、支援コーディネーター1名を配置。支援ネットワークの構築、専門的な相談体制を整備。</li> <li>・高次脳機能障害者家族会が実施する相談事業及び一般県民向けの普及啓発事業に対して助成</li> <li>・高次脳機能障がいに関する情報や医療機関、事業所等の支援機関を掲載した「高次脳機能障害支援サイト」を通じて情報提供を継続して実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能障がい支援拠点を中心に医療機関や福祉サービス事業所とのネットワークが構築されてきているが、今後さらに強化していくことが必要。</li> <li>・高次脳機能障害者家族会が培ってきたネットワークと行動力を活かし、医療機関から相談のあった対象者を関係機関へつなぎ、医療から福祉への連携を促進。</li> <li>・支援サイトに支援機関の状況を掲載することにより県民や関係機関に対して支援情報の提供を図った。</li> </ul>

## (2) 広域的な支援事業

項目	状況	評価
ア 相談支援体制整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村に置かれた地域自立支援協議会にて地域課題の検討が行われ、県で対応が必要となる課題は県の地域自立支援協議会で検討された。</li> <li>・アドバイザー派遣制度を設け、2件の派遣を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村に置かれた地域自立支援協議会にて地域課題の検討が行われ、県で対応が必要となる課題は県の地域自立支援協議会で検討され、専門部会の設置に向けて検討を深めている。</li> <li>・相談支援アドバイザーについての派遣要請はあるので、引き続き実施。あり方や実施方法について、今後検討を行う。</li> </ul>
イ 精神障がい者地域移行・地域定着支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域ごとに地域移行推進会議、地域移行連絡会等を開催し、地域移行に関する情報提供及び理解を促進</li> <li>・精神科病院の入院患者の退院意欲向上のため、入院患者と外部ボランティアとの交流会を開催。</li> <li>・退院可能な入院患者に対し、病院外活動における同行支援等の個別支援を実施。</li> <li>・精神科医療機関や訪問看護ステーション等のスタッフを対象に研修会を開催し、人材育成を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を通じ、病院スタッフ等関係者の間に長期入院患者を地域へ帰すという意識を醸成。</li> <li>・個別支援や退院促進事業により一部の者は地域移行に繋がった。</li> </ul>

## (3) 障がい者福祉従業者研修事業

項目	状況	評価
ア サービス提供職員現任研修	・46人受講（H28年度まで）	・活発な意見交換が行われ、サービス充実に一定の効果があると判断
イ サービス従事者研修	・86人受講（H28年度まで）	・研修修了者が増加していること、受講者へのアンケート結果もおおむね評価が高いことから、サービスの充実に一定の効果があると判断
ウ 障がい福祉従業者障がい分野別基礎研修	・386人受講（H28年度まで）	・研修修了者が増加していること、受講者へのアンケート結果もおおむね評価が高いことから、サービスの充実に一定の効果があると判断
エ 障害程度区分認定調査員等研修	・174人受講（H28年度まで）	・研修修了者が増加していること、H26年度の制度改正等、適宜必要な内容を盛り込んでおり、認定業務の充実に一定の効果があると判断。
オ 相談支援従事者研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養成研修 112人受講（H28年度まで）</li> <li>・現任研修 56人受講（H28年度まで）</li> </ul>	・研修修了者が増加していること、また、受講者へのアンケート結果もおおむね評価が高いことから、相談支援の充実に一定の効果があると判断。



	・専門コース別研修 64人受講（H28年度まで）	
カ 同行援護従事 者養成研修	・108人受講（H28年度まで）	・おおむね計画通りの修了者数を確保できていることから、サービス充実に一定の効果があると判断。
キ 行動援護従事 者養成研修	・115人受講（H28年度まで）	・適正な障害福祉サービスを提供するために必要となる人材の確保、資質の向上に一定の効果あり。
ク サービス管理 責任者研修	・231人受講（H28年度まで）	・おおむね計画通りの修了者数を確保できていることから、サービス充実に一定の効果があると判断。
ケ 障がい者グル ープホーム・ケ アホーム世話人 研修	・309人受講（H28年度まで）	・研修修了者が増加していること、受講者へのアンケート結果もおおむね評価が高いことから、サービスの充実に一定の効果があると判断。
コ 行動障がい者 支援研修	・115人受講（H28年度まで）	・おおむね計画通りの修了者数を確保できていることから、サービス充実に一定の効果があると判断。
サ 要介助高齢知 的障がい者支援 研修	・103人受講（H28年度まで）	・適正な障害福祉サービスを提供するために必要となる人材の確保、資質の向上に一定の効果あり。
シ 地域移行支援 研修	・77人受講（H28年度まで）	・おおむね計画通りの修了者数を確保できていることから、サービス充実に一定の効果があると判断。

#### (4) 身体障害者相談員・知的障害者相談員の活動促進

#### (5) 盲人ホーム運営支援

#### (6) 生活訓練事業

項目	状況	評価
ア 身体障害者相 談員・知的障害 者相談員の活動 促進	・身体障害者相談員及び知的障害者相談員を対象とした相談員研修を実施。	・先進的な事例や全国的な状況の研修会を受ける事により、相談員の資質の向上につながったと判断。
イ 盲人ホーム運 営支援	・盲人ホームの運営費を助成。	・視覚障がい者の社会的自立を推進。
ウ 生活訓練事業	・視覚障がい者、聴覚障がい者、オストメイト（人工肛門、人工膀胱造設者）、疾病等により音声機能を喪失した人に対して、日常生活上必要なトレーニング・指導等を関係団体に委託して事業を実施。	・各障がいに合った訓練を実施することにより、一定の生活の質的向上が図れたと判断。

#### (7) 情報支援等事業

項目	状況	評価
ア 手話通訳者設 置事業	・鳥取県聴覚障害者協会に手話通訳者を配置し、手話通訳者等の派遣コーディネート、人材育成業務を実施。	・手話通訳者、要約筆記者制度の運用のため必要不可欠な事業。 ・聴覚障がい者の情報保障を推進。
イ 手話通訳者、 点訳・朗読奉仕 員等養成研修事 業	・手話通訳者養成事業で研修を実施、登録者53人（H28年度末）。 ・要約筆記者養成事業で研修を実施、登録者21人（H28年度末） ・点訳・朗読奉仕員養成研修事業を実施。	・手話通訳者等は着実に増えているが、鳥取県手話言語条例制定後、手話通訳依頼が急増。 ・手話通訳者の養成と通訳技術向上は喫緊の課題。
ウ 点字図書館の 運営支援	・点字図書館の運営費を助成。	・点字刊行物、視覚障がい者用の録音物等を制作。 ・今後は、より多様なジャンルの刊行物等を点字化、音声化していく必要あり。
エ 点字・声の広 報等発行事業	・「県政だより」等を点字化したものを発行し、県内の視覚障がい者に無料で配布。 ・「県政だより」等を音声化し、録音テープに収録・複製して毎月発行し、県内の視覚がい	・点字化、音声化資料を作成することで視覚障がい者の情報アクセス保障に効果。 ・ただ、さらに情報アクセスを向上させるためには、点字化、音声化する広報物のバリエー

	者に貸出。	ション充実が必要。
オ 点字による即時情報ネットワーク事業	・日本盲人会連合会の提供する最新の新聞情報等を通信ネットワーク等を利用して情報提供。	・最新情報を提供することにより、日常生活に必要な情報の周知と社会参加を促進する。
カ 字幕入りビデオカセットライブラリー事業	・利用者からの要望を考慮した字幕入りビデオを制作。 ・H28年度の貸出し本数は185本。	・貸出本数は、平成24年度以降伸び悩んでいる状況。
キ 聴覚障がい者情報拠点機能の強化	・H26年4月1日、聴覚障がい者の支援拠点として、鳥取市、倉吉市、米子市に鳥取県聴覚障がい者センターを整備。	・センター設置により、従来、県や市町村毎に行っていた手話通訳者の派遣を一元的に対応でき、情報機器の貸し出しや相談、当事者の活動支援などにあたることが可能となり、機能強化に繋がったと評価。
ク 障がいのある人のためのパソコンボランティア養成・派遣事業	・H24年10月から当該事業を実施 ・ボランティア数：13名 ・ボランティア派遣件数 H27：162件、H28：148件	・事業開始して以来、少しずつではあるが、派遣件数も増加してきているが、更に周知等を図って利用者増に努めることで、障がい者の社会参加の促進を図っていく。
ケ 盲ろう者通訳・介助員養成研修・派遣等事業	・H27年度以降、盲ろう者向け通訳・介助員の派遣を継続して実施、養成研修の充実、支援団体である盲ろう者友の会の体制強化等を行った。 ・H28年度、盲ろう者支援センターを設置。	・H21年度から実施している盲ろう者通訳・介助員の派遣・養成事業等により、盲ろう者の社会参加推進に効果あり。 ・センターを核として、交流や訓練、その他さらなる施策等の拡充を図っていく必要がある。

## (8) 社会参加促進事業

項目	状況	評価
ア 補助犬育成事業	・県内では合計4頭の盲導犬が活動している。 (1頭は夫婦でタンデム利用)	・貸与した盲導犬は有効に活用されており、視覚障がい者の社会参加促進につながっている。
イ 障がい者社会参加推進センター設置事業	・障がい者の社会参加を促進するために社会福祉法人鳥取県身体障害者福祉協会に委託し、障害者社会参加促進センターを設置・運営。	・障がい者の社会参加につなげていくために、必要な情報の収集、分析を実施。 ・他県の情報も取り入れながら、今後の活動について検討されており、各種障がい者団体の中核として重要な役割を担う機関として期待されていると判断。
ウ 知的障がい者レクリエーション教室開催事業	・スポーツ・レクリエーション活動を通じて、障がい者の体力増強、交流、余暇等に資するため、及び障がい者スポーツを普及するため、各種スポーツ・レクリエーション教室を開催。	・自ら何かを行うという自立意欲を高め、自己実現につながっていると判断。
エ アルコール・薬物関連問題家族教室開催事業	・東部福祉保健事務所で、アルコール・薬物家族教室を毎月第2金曜日開催。学習会及び家族の意見交換会(ピアカウンセリング)を実施。	・アルコール・薬物の問題で悩んだり、苦しんだり、心配している家族が、依存症に関する正しい知識を得ることができ、他の家族との話し合いを通じて悩みを共有することにより不安等の軽減に繋がっているものと判断。

## (9) スポーツ振興事業

## (10) 文化・芸術振興事業

## (11) 障がい児・者地域生活体験事業

項目	状況	評価
(9) スポーツ振興事業	・全国障害者スポーツ大会に係る鳥取県選手団個人競技選手選考記録会を開催、個人選手の選考を行い、団体競技に係る中・四国ブロック予選会及び全国障害者スポーツ大会への鳥取県選手団の派遣等を実施。 ・障がい者スポーツ指導員を養成する講習会を開催し指導者の育成等を実施。 ・鳥取さわやか車いす&湖山池マラソン大会、全日本Challengedアクアスロン皆生大会の開催に要する費用を助成。	・指導者の育成、全国障害者スポーツ大会参加などを通じて、障がい者スポーツの振興に向けた取組を実施。 ・全国障害者スポーツ大会の個人競技の県内予選会の参加数も、増える傾向にあり、障がい者にとって目標、励みとなっている。 ・また、各種障がい者スポーツ大会の開催の支援により、障がい者に対する理解の促進や健常者と障がい者との交流を促進(県外からの参加者も増加傾向)。

<p>(10) 文化・芸術振興事業</p>	<p>・障がい者が取り組む芸術・文化活動にかかる経費を支援。  <b>【鳥取県障がい者アート活動支援事業補助金】</b>          支援事業数：促進事業45件、個展等開催事業34件          ・障がい者の取り組む舞台芸術や作品の発表・鑑賞機会の場を提供。  <b>【あいサポート・アートとっとり祭の開催】</b>          出演者：32団体、参加者：延べ4,929人  <b>【あいサポート・アートとっとり展の開催】</b>          応募作品数：479点、入館者数：2,400人          ・障がい者の芸術・文化活動に関する情報発信拠点として「あいサポート・アートインフォメーションセンター」を設置。障がい者の優れた芸術・文化作品の常設展示や芸術・文化活動に取り組む障がい者・支援者の相談支援等を行った。  <b>【常設展示】</b>県内企画展4回、県外企画展4回、観覧者数：延べ6,160人</p>	<p>・「第14回全国障がい者芸術文化祭とっとり大会」を開催し、障がい者の芸術・文化活動への参加を通じて、障がいへの理解と認識を深め、障がい者の自立と社会参加を促進した成果を引き継ぎ、芸術文化活動に取り組む者が年々増加し、着実に支援を行っている。          ・今後も県内の障がい者のアート活動の躍進に期待。</p>
<p>(11) 障がい児・者地域生活体験事業</p>	<p>・在宅の障がい児・者が自立した生活に備えるために「地域生活体験事業」を実施する市町村に助成。          ・生活体験ホームで一定期間宿泊しながら、自立に向けた体験を行うことにより、生活技術の習得や自立の意欲を引き出し、地域移行を促進。</p>	<p>・地域生活体験事業の利用者が地域生活へ移行するケースは少ないものの、施設・病院に入所・入院している間に「体験」することは、本人の動機付けや職員・家族への心構えに重要。</p>

※状況及び評価は、平成29年10月時点のもの

## 7 県が実施する地域生活支援事業に係る実績

### ① 専門性の高い相談事業

項目		単位	区分	第4期計画			考え方
				H27	H28	H29	
発達障がい者支援センター事業	拠点設置数	箇所	計画	1	1	1	県の拠点は1か所(エール)とする
			実績	1	1		
障害者就業・生活支援センター事業	設置数	箇所	計画	3	3	3	圏域ごとに1か所設置
			実績	3	3		
障がい児等地域療育支援事業	実施施設数	箇所	計画	6	6	6	各圏域で事業実施
			実績	6	6		
高次脳機能障がい普及事業	拠点機関数	箇所	計画	1	1	1	鳥取大学附属病院に拠点設置 ※H28より医療法人十字会野島病に移転
			実績	1	1		

### ② 専門性の高い意思疎通支援を行う者の養成研修・派遣事業

項目		単位	区分	第4期計画			考え方
				H27	H28	H29	
手話通訳者設置事業	設置手話通訳者数	人	計画	4	4	5	過去の実績を踏まえ算出
			実績	4	4		
手話通訳者養成研修事業	受講者数	人	計画	30	50	70	過去の実績を踏まえ算出
			実績	25	27		
	登録者数	人	計画	50	55	60	過去の実績を踏まえ算出
			実績	41	53		
要約筆記者養成研修事業	受講者数	人	計画	30	35	40	過去の実績を踏まえ算出
			実績	28	23		
	登録者数	人	計画	15	20	25	過去の実績を踏まえ算出
			実績	17	21		

③ サービス・相談支援者、指導者育成事業

項目	単位	区分	第4期計画			考え方	
			H27	H28	H29		
サービス提供責任者研修	受講者数	人	計画	40	40	40	第3期計画の計画受講者数を確保
			実績	26	20		
サービス従業者研修	受講者数	人	計画	40	40	40	第3期計画の計画受講者数を確保
			実績	43	43		
障がい福祉従事者分野別基礎研修	受講者数	人	計画	120	120	120	第3期計画の計画受講者数を確保
			実績	186	200		
障害程度区分認定調査員等研修	受講者数	人	計画	100	100	100	第3期計画の計画受講者数を確保
			実績	104	68		
相談支援従事者研修	養成(受講者数)	人	計画	40	40	40	第3期計画の計画受講者数を確保
			実績	56	56		
	現任(受講者数)	人	計画	40	40	40	第3期計画の計画受講者数を確保
			実績	18	38		
	専門コース別研修	人	計画	40	40	40	現任研修の受講者数を確保
			実績	19	45		
同行援護従事者養成研修	受講者数	人	計画	30	30	30	3期計画の計画受講者数を確保
			実績	69	39		
行動援護従事者養成研修	受講者数	人	計画	30	30	30	3期計画の計画受講者数を確保
			実績	60	55		
サービス管理責任者研修	受講者数	人	計画	100	100	100	受講者数の減少が見込まれること、分野別演習の充実を図ることから減
			実績	99	132		
児童発達支援管理責任者研修(仮称)	受講者数	人	計画	20	20	20	3期計画の計画受講者数を確保
			実績	20	35		
障がい者グループホーム・ケアホーム世話人研修	受講者数	人	計画	100	100	100	3期計画の計画受講者数を確保
			実績	153	156		
行動障がい者支援研修	受講者数	人	計画	20	20	20	3期計画の計画受講者数を確保
			実績	52	61		
要介助高齢知的障がい者支援研修	受講者数	人	計画	50	50	50	3期計画の計画受講者数を確保
			実績	52	51		
地域移行支援研修	受講者数	人	計画	30	30	30	3期計画の計画受講者数を確保
			実績	40	37		
精神障がい関係従事者養成研修事業(地域移行支援従事者及び精神科訪問看護従事者)	受講者数	人	計画	60	60	60	研修の実施体制を考慮
			実績	135	96		

④ 任意事業

項目	単位	区分	第4期計画			考え方	
			H27	H28	H29		
盲人ホーム運営事業	箇所数	箇所	計画	1	1	1	米子市内に1か所設置
			実績	1	1		
生活訓練事業	年間利用者数	人	計画	3,530	3,580	3,630	第3期計画の実績を踏まえ算出
			実績	1,605	1,477		
点字・声の広報等発行事業	発行誌種類	誌	計画	20	22	25	過去の実績を踏まえ算出
			実績	20	16		
点字による即時情報ネットワーク事業	年間実利用者数	人	計画	35	35	35	普及啓発の強化により年間35人を見込む
			実績	23	21		
字幕入りビデオライブラリー事業	年間利用件数	人	計画	500	550	600	普及啓発の強化により各年度50人増を見込む
			実績	291	185		
障がいのある人のためのパソコンボランティア養成・派遣事業	年間派遣件数	件	計画	120	120	120	年間派遣件数120件を見込む
			実績	162	148		
補助犬育成事業	貸与頭数	頭	計画	1	1	1	普及啓発の強化により各年度1頭の貸与を進める
			実績	0	0		
障がい者社会参加推進センター設置事業	設置数	箇所	計画	1	1	1	
			実績	1	1		

知的障がい者レクリエーション教室 開催事業	年間回数	回	計画	15	15	15	第3期計画の開催回数を確保
				13	11		
精神障がい者家族 教室開催事業	年間回数	回	計画	12	12	12	アルコール・薬物等家族教室を月1回開催
				12	11		
スポーツ振興事業	協会新規 加盟団体 数	団体	計画	18	20	22	各年度2団体の新規加盟を見込む
				17	18		
精神保健福祉普及 啓発事業	年間回数	回	計画	2	2	2	啓発事業2種を年各1回開催
				2	1		

(資料3) 第5期鳥取県障がい福祉計画及び第1期鳥取県障がい児福祉計画に規定した  
 施策の評価・実績

1 施設入所者の福祉施設から地域生活への移行促進

項目	単位	目標値	実績		備考
		R2年度	H30年度	R1年度	
施設入所者数	人	998以下	994	968	
削減見込み数	人	20以上	22	15	
地域生活への移行者数	人	92以上	6	0	施設入所から自宅、グループホーム等へ移行する者の数

項目	状況	評価
1 住まいの場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2件(住居数)の施設整備費の助成により、グループホームの新規整備を促進している。 ※整備数はR1年度交付決定分含む(特に記述がない限り、以下施設・設備整備費関連項目同様)</li> <li>・夜間支援員の配置に係る補助事業等により、59住居に夜間支援体制を確保している。</li> <li>・県営住宅の募集において、障がい者世帯を優先入居の対象とし、優先的に取り扱うこととしている。</li> <li>・H24.11に鳥取県居住支援協議会を設立し、あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録・公開すると共に、2名の専任相談員による情報提供及び相談対応を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施により、地域でのサービス提供基盤の整備や住まいの場の確保が進んでいるが、今後も地域生活を行う上での基盤整備を推進していくことが必要。</li> <li>・今後も優先入居の取扱いを継続し、障がい者の住まいの確保に取り組む。</li> <li>・H30年度に34世帯、R1年度に36世帯の障がい者世帯が安心賃貸支援事業により入居決定。あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録件数は横ばいとなっており、普及啓発、情報提供及び不動産事業者・支援団体に対する協力依頼等により、今後も登録の拡大を推進していくことが必要。</li> </ul>
2 日中活動の場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2件の施設整備費の助成により、日中活動の場の確保に努めている。</li> <li>・工賃3倍計画事業を行うとともに、ハートフルサポート事業や農福連携推進事業等の実施により、工賃水準の引上げを支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施により、日中活動事業所の整備が図られているが、今後もニーズへの対応が必要となるサービスにおいては、引き続き施設整備を推進していくことが必要。</li> <li>・工賃の向上に関する取組は、引き続き推進していくことが必要。</li> </ul>
3 障害福祉サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10件の障害福祉サービス事業所の施設整備費に助成している。</li> <li>・サービスの充実のため、「サービス提供責任者研修」、「障がい福祉従事者分野別基礎研修」、「相談支援従事者研修」、「強度行動障がい者支援研修」、「サービス管理責任者研修」等を継続して実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施により、障害福祉サービスの充実に進んでいるが、引き続き施設整備等を推進していくことが必要。</li> <li>・新たな研修需要にも対応しており、サービス充実に一定の効果があると判断。今後も高齢の障がい者や強度行動障がい者への支援に関する研修の充実が必要。</li> </ul>
4 相談支援体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活支援センターを全市町村が設置、県はその経費の4分の1を助成している。</li> <li>・相談支援従事者の技術向上を図るため、初任者研修、現任研修及び専門コース別研修を実施している。</li> <li>・市町村等からの要請に基づき、市町村等にアドバイザーを派遣し、相談支援等に関する助言を実施している。</li> <li>・身体障害者・知的障害者相談員の資質の向上や活動の強化を促進するため、研修会を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者の地域生活を推進するためにも、各地域における相談支援体制の確保・充実が必要であり、各事業を着実に継続実施していく必要がある。</li> </ul>

	している。	
5 啓発・広報活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいサポート運動（H21.11月から実施）の研修等を各地で行うことにより、普及・啓発の取組を推進。また、他県との連携協定を通じて共生社会の実現に取り組んでいる。</li> <li>・障害者週間ポスター、心の輪を広げる体験作文を募集し、優秀作品を表彰した。</li> <li>・障がい者に関する情報をまとめた「よりよい暮らしのために」を障害者手帳交付時（新規）に配布している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいサポート運動は、県内に留まらず全国へと広がりを見せており、多くの者に一定の理解と賛同を得られているものと評価。</li> </ul> <p>&lt;あいサポーター研修開催数&gt; 127件（H30年度）、106件（R1年度）</p> <p>&lt;R1年度末時点&gt; 連携協定締結数：7県13市5町 あいサポーター数：544,116人</p>
6 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活を体験できる場の提供として「地域生活体験事業」を実施する市町村に助成している。</li> <li>・「日中一時支援（地域生活支援事業）」を行う市町村に対し、県はその経費の4分の1を助成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活を行う動機付け等のため、体験できる場の提供は必要。</li> <li>・全市町村で日中一時支援事業を実施しており、今後も引き続き、事業実施が必要。</li> </ul>

## 2 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築

### ア 精神障がい者を地域で支えるための関係者による協議の場の設置

項目	単位	目標値	実績		備考
		R2年度	H30年度	R1年度	
圏域ごとの保健、医療、福祉関係者による協議の場	箇所	4	4	4	県と各圏域において協議の場を設置
市町村ごとの保健、医療、福祉関係者による協議の場	箇所	3	2	3	各圏域において協議の場を設定

### イ 在院期間1年以上の長期在院者数

項目	単位	目標値	実績		備考
		R2年度	H30年度	R1年度	
在院期間1年以上の長期在院者数（65歳未満）	人	279以下	330	292	
在院期間1年以上の長期在院者数（65歳以上）	人	571以下	575	534	

### ウ 入院後一定期間時点での退院率

項目	単位	目標値	実績		備考
		R2年度	H30年度	R1年度	
入院後3ヶ月時点の退院率	%	69	国公表前	国公表前	H29年度の実績 61.69%
入院後6ヶ月時点の退院率	%	84	国公表前	国公表前	H29年度の実績 75.97%
入院後1年時点の退院率	%	90	国公表前	国公表前	H29年度の実績 87.01%

項目	状況	評価
1 住まいの場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2件（住居数）の施設整備費の助成により、グループホームの新規整備を促進している。</li> <li>・県営住宅の募集において、障がい者世帯を優先入居の対象とし、優先的に取り扱うこととしている。</li> <li>・H24.11に鳥取県居住支援協議会を設立し、あ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施により、地域でのサービス提供基盤の整備や住まいの場の確保が進んでいるが、今後も地域生活を行う上での基盤整備を推進していくことが必要。</li> <li>・今後も優先入居の取扱いを継続し、障がい者の住まいの確保に取り組む。</li> <li>・H30年度に34世帯、R1年度に36世帯の障が</li> </ul>

	<p>んしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録・公開すると共に、2名の専任相談員による情報提供及び相談対応を実施している。</p>	<p>い者世帯が安心賃貸支援事業により入居決定。あんしん賃貸住宅及び協力不動産店の登録件数は横ばいとなっており、普及啓発、情報提供及び不動産事業者・支援団体に対する協力依頼等により、今後も登録の拡大を推進していくことが必要。</p>
2 地域生活支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援従事者の技術向上を図るため、初任者研修、現任研修及び専門コース別研修を実施している。</li> <li>市町村等からの要請に基づき、市町村等にアドバイザーを派遣し、相談支援等に関する助言を実施している。</li> <li>身体障害者・知的障害者相談員の資質の向上や活動の強化を促進するため、研修会を実施している。</li> <li>身体障害者・知的障害者相談員の資質の向上や活動の強化を促進するため、研修会を実施している。</li> </ul> <p>・精神障がい者の休日夜間における相談・診療・入院応需に対応するため、県内の精神科病院を「精神科救急医療施設」に指定し、各圏域に精神科救急医療体制を確保している。また、各圏域で「精神科救急医療体制連絡調整会議」を開催し、関係機関と精神科救急の連携を図っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者の地域生活を推進するためにも、各地域における相談支援体制の確保・充実が必要であり、各事業を着実に継続実施していく必要がある</li> </ul> <p>・県内精神科病院の協力により、24時間、365日の精神科救急医療体制を確保。※R1年度末時点で県内7病院を精神科救急医療施設として指定。</p>
3 医療の質の向上（早期発見、支援体制の確保）	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急隊が速やかに傷病者を医療機関に搬送できるようにするため、精神疾患の項目を設けた「傷病者の搬送及び受入れに関する実施基準」を策定し、H23年度から運用を開始している。</li> </ul> <p>・精神障がい者の休日夜間における相談・診療・入院応需に対応するため、県内の精神科病院を「精神科救急医療施設」に指定し、各圏域に精神科救急医療体制を確保している。また、各圏域で「精神科救急医療体制連絡調整会議」を開催し、関係機関と精神科救急の連携を図っている。</p>	<p>・県内精神科病院の協力により、24時間、365日の精神科救急医療体制を確保。※R1年度末時点で県内7病院を精神科救急医療施設として指定。</p>
4 精神疾患・障がいに関する知識の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障がい者地域移行・地域定着支援関係者研修会及び精神科訪問看護管理者・従事者研修会等で、精神疾患に関する正しい知識の普及を実施した。</li> <li>「心の健康フォーラム」を開催し、精神障がい者に対する県民の理解を深め、社会復帰及び社会参加を促進した。</li> <li>当事者団体が実施する普及啓発事業（精神障がい、てんかん、高次脳機能障がい、依存症等）について、運営費を助成した。</li> </ul>	<p>・事業実施により、県民への精神障がいに対する正しい理解・知識の普及、当事者の社会復帰・社会参加の促進が図られている。</p>
5 精神障がい者地域移行・地域定着支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>各圏域で、保健・医療・福祉の各分野の責任者（精神科病院、市町村等）や実務担当者の会議を開催し、関係機関等とのネットワークづくりを推進した。</li> <li>精神保健福祉センターにおいて、退院支援や訪問看護に従事する職員を対象とした地域移行に係る研修会を開催した。</li> <li>西部圏域をモデル圏域とし、精神障がい者等の支援困難事案について、関係機関等とのケース検討や家庭訪問等を通じて協働支援を実施した。</li> </ul>	<p>・関係機関に情報提供を行うことで、地域移行への意識付けや関係機関の連携強化に繋がるとともに、障がい者の地域移行・地域定着に繋がった。</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>西部圏域をモデル圏域とし、地域支援者（市町村、相談支援事業所等）による病院訪問や地域交流会の開催を通じて、入院中の精神障がい者の退院促進を図るとともに、保健・医療・福祉関係者による協議の場を設置し取組の検証を行いながら、精神障がい者に対応した地域全体で支える仕組みの構築に向けて取組んだ。</li> </ul>	
--	--	--

### 3 地域生活支援拠点等の整備

項目	単位	目標値	実績		概要
		R2 年度	H30 年度	R1 年度	
地域生活支援拠点の整備数	箇所	19	0	0	

項目	状況	評価
1 地域生活支援拠点の整備促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>国担当者を招聘し、各市町村に対してブロック会議を開催するなど、地域生活支援拠点に関する理解促進や情報共有を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各市町村で地域生活支援拠点設置に向けた協議や検討がなされている。</li> </ul>

### 4 福祉施設から一般就労への移行促進

項目	単位	目標値	実績		備考
		R2 年度	H30 年度	R1 年度	
福祉施設から一般就労への移行	人	138	78	72	
就労移行支援事業の利用者数	人	141	55	61	
就労移行支援事業所ごとの就労移行率が30%を超える事業所の割合	%	50	55	33	
就労定着支援事業の職場定着率	%	80	0	62.5	※R1 年度末時点で東部は事業所なし
就労移行支援事業及び就労継続支援事業利用者の一般就労移行者数	人	138	78	72	
障害者に対する職業訓練の受講者数	人	13	3	2	
施設から公共職業安定所への誘導者数	人	62	31	34	
福祉施設から障害者就業・生活支援センターへの誘導者数	人	49	30	48	
福祉施設利用者のうち公共職業安定所の支援を受け就職する者の数	人	62	29	34	

項目	状況	評価
1 障がい者雇用の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>商工団体、障害者就業・生活支援センター、就労支援団体、鳥取労働局、鳥取障害者職業センター及び県関係部局等で構成する「鳥取県障がい者雇用推進会議」（会長：副知事）を開催し、障がい者の雇用推進、職場定着に向けた取組等の意見交換を行うとともに、関係機関の連携を図った。</li> <li>障がい者雇用アドバイザーを県庁に1名配置し、法定雇用率未達成企業をはじめとした企業トップに対し、障がい者雇用の働きかけ等を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取労働局、障害者就業・生活支援センター等との連携した取組により、障がい者の実雇用率は年々増加している。引き続き雇用促進、職場定着の図られるよう関係機関と連携した取組を継続するとともに、多様な働き方について、取組を進めていく必要がある。</li> <li>障がい者雇用アドバイザーは、企業トップへ障がい者雇用の働きかけを行うことができるため、極めて有効と評価。</li> </ul>
2 特別支援学校における企業等と連携した職業教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校から職場への円滑な移行と定着を図るため、就労定着支援員を東部1名、中部1名、西部1名、琴の浦高等特別支援学校3名の計6名を配置し、在学中から卒業後までの就労促進及び職場定着支援を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労定着支援員の配置は、生徒の就職率向上に大きく貢献している。全圏域の就職希望者が在籍する琴の浦が開校し新たな役割を果たしており、今後も就労定着支援員を活用した特別支援教育と企業との連携強化が必要である。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校進路担当者情報共有会を開催し、在学中から卒業までの就労促進及び職場定着に向けての情報を共有した。また、労働局が主催するプロジェクトリーダー会議に参画し、関係機関との連携強化に努めた。</li> <li>・各圏域で就労促進セミナーを開催し、企業への理解啓発を促進するとともに、関係機関との連携強化を図った。</li> </ul>	
3 総合的な就労支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各障害者就業・生活支援センターに、各担当職員（職場開拓、定着支援、生活支援、発達障がい者就労支援等）を配置し、障がい者の就業支援を行うとともに、中西部の障がい者職場定着推進センターにジョブコーチ（職場適応援助者）を継続配置し、職場実習先の開拓、職場定着の支援を行った。</li> <li>・障害者就業・生活支援センター登録者及び就労移行支援事業等の利用者の職業訓練機会提供のため、各イベント及び担当者会議で職業訓練コースの周知を図っている。</li> <li>・鳥取労働局、鳥取障害者職業センター等と連携し、令和元年度実施の「障がい者雇用実態調査」の結果を踏まえて、障がい者雇用企業トップセミナー、障がい者が働く職場の相談員研修会等を実施した。</li> <li>・障がい者一般就労移行ネットワーク会議により、支援者が連携し、一般就労移行しやすい環境を整えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のニーズや個性に応じた適切な就業支援が行われるよう引き続き研修等を通じた啓発やスキルアップを図るなど、一般就労へ向けた支援を行っていくことが必要である。</li> <li>・職場実習から就職決定につなげることができ、就職後もジョブコーチや職場定着支援員による定着支援を行えた。</li> <li>・「障がい者雇用実態調査」の結果を活用し、障がい者就労の支援者に対する研修を行うなど、就労支援者のスキルアップを行えた。</li> </ul>
4 障がい特性に応じた就労支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取労働局、鳥取障害者職業センターと共催で、障がいを理解し職場の同僚等として障がい者を支えるための「とっとり障がい者仕事サポーター養成講座」を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とっとり仕事サポーター養成講座により、職場の上司や同僚の障がい特性への理解が深まった。</li> </ul>
5 福祉的就労の底上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者優先調達推進法に基づき、調達方針を定め、障がい者就労施設等からの物品の優先調達を行うとともに、鳥取県就労事業振興センター内に設置した共同受注窓口等を通じて、県以外の機関への働きかけを行った。</li> <li>・障がい者のはたらき・自立のための工賃向上事業により、就労継続支援事業所の特性に応じて、専門家派遣や研修などの支援を行った。</li> <li>・一般就労移行支援事業により、実習受入企業への謝金支給等を行い、就労移行支援事業所等からの一般就労移行を促進した。</li> <li>・とっとりモデルの共同受注体制構築事業により、複数の障害福祉サービス事業所が作業可能な共同作業場を設置、運営し、大量受注を可能とする環境を整えた。</li> <li>・農福連携推進事業により、農家と障害福祉サービス事業所とのマッチングを推進するとともに、マルシェの開催による農福連携の取組紹介や農福連携を通じた地域と障がい者との連携による仕事作りに取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工賃3倍計画事業を受託実施する鳥取県就労事業振興センターを中心とした事業実施など、工賃向上に向けた取組が着実に進み、工賃向上に貢献。</li> <li>・工賃実績は、H18年度工賃実績（10,983円）から着実に増加し、H30年度は過去最高の19,511円となった。</li> <li>・引き続き、工賃3倍計画の達成を目指して、工賃向上に向けた取組を実施して行くことが必要。</li> </ul>
6 年金・手当等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害年金のパンフレットについて、関係機関に送付し、制度の周知に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受給資格者への確実な年金受給に貢献している。</li> </ul>

## 5 児童発達支援センターの設置及び保育所等訪問支援の充実

項目	単位	実績			備考
		R2年度	H30年度	R1年度	

児童発達支援センターの設置	箇所	7	4	4	※R1実績 (東部1、中部1、西部2)
保育所等訪問支援事業所の設置	箇所	9	5	7	※R1実績 (東部5、中部1、西部1)

項目	状況	評価
児童発達支援センターの設置及び保育所等訪問支援の充実	各圏域に利用できる事業所は設置されている。	引き続きサービスの充実が必要

## 6 主に重症心身障がい児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所の確保

項目	単位	目標値	実績		備考
		R2年度	H30年度	R1年度	
主に重症心身障がい児を支援する児童発達支援事業所の設置	箇所	7	2	2	※R1実績 (東部1、中部1、西部0)
主に重症心身障がい児を支援する放課後等デイサービス事業所の設置	箇所	7	3	3	※R1実績 (東部1、中部1、西部1)

項目	状況	評価
主に重症心身障がい児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所の設置	放課後等デイサービスは各圏域に1箇所は設置されている。児童発達支援は東部、中部のみの設置。	引き続きサービスの充実に向けて必要

## 7 医療的ケアを要する障がい児支援のための関係機関の協議の場の設置

項目	単位	目標値	実績		備考
		R2年度	H30年度	R1年度	
医療的ケアを要する障がい児支援のための関係機関の協議の場の設置	箇所	5	1	5	※R1実績 (県、東部2、中部1、西部1)

状況	評価
各圏域及び県における協議の場を設置した。	市町村、圏域、県における協議の場の連携と役割分担を整理しつつ、引き続き整備を図ることが必要。

## 8 障害福祉サービス等の確保策

項目	状況	評価
(1) 居宅介護・重度訪問介護・同行援護・行動援護・重度障害者等包括支援	・サービス提供職員に対し、サービス提供責任者研修、行動援護従業者養成研修、同行援護従業者養成研修等を実施。 ・重度訪問介護等に係る国庫負担基準を超過する市町村に対する助成事業を実施。	・適正な障害福祉サービスを提供するために必要となる人材の確保、資質の向上に繋がった。
(2) 生活介護	・1件(多機能型)の施設整備に助成。 ・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・事業実施により、資源の基盤確保や利用者の環境改善等が図られた。 ・施設整備は、施設入所者の地域移行の流れの中で日中支援の場としてサービス需要が増えていくと考えられ、引き続き基盤整備の促進が重要となる。
(3) 自立訓練(機能訓練)	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(4) 自立訓練(生活訓練)	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(5) 就労移行支援	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。

	把握に努めた。	
(6) 就労継続支援 (A型)	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(7) 就労継続支援 (B型)	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。 ・米子市及び境港市において、総量規制を試行的に開始した。 (試行的実施の期間:R2. 10. 1~R3. 9. 30)	・サービス提供量が障がい福祉計画に定めるサービス見込量に達していない地域においては、今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。 ・総量規制の試行的実施地域においては、総量規制の実施に伴う課題抽出や効果検証等を行っていく。
(8) 就労定着支援	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(9) 療養介護	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・施設整備のニーズや実態等の把握に努める。
(10) 短期入所	・2件(多機能型及び共同生活援助)の施設整備に助成。 ・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・事業実施により、資源の基盤確保や利用者の環境改善等が図られた。 ・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(11) 自立生活援助	・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(12) 共同生活援助 (グループホーム)	・5件の施設整備に助成。 ・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(13) 施設入所支援	・2件の施設整備(大規模修繕)に助成。 ・助成制度等の情報提供を該当する全法人に対して行い、その中で事業実施の意向等の把握に努めた。	・今後も入所者の生活環境改善等に対応していくことが必要。
(14) 計画相談支援・地域移行支援・地域定着支援	・地域生活支援事業(障がい者福祉従業者等研修事業)により相談支援専門員の数を増やしつつ、フォローアップ研修や現任研修等で資質向上を図ることにより、計画相談支援の利用環境を整えた。 ○相談支援専門員初任者研修 受講54人 ○相談支援専門員現任研修 受講32人	・今後も相談支援専門員の人材育成や資質向上を図っていくことが必要。 ・県地域自立支援協議会での人材育成に関する検討のほか、人材育成ビジョンに沿った人材育成を実施していく。
(15) 児童発達支援、医療型児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援、障害児相談支援、福祉型障害児入所支援、医療型障害児入所支援	・1件(多機能型)の施設整備に助成。 ・施設整備等の希望を聞く際に、制度の内容や助成制度の情報提供を、該当する全法人に対し行い、その中で事業の意向等の把握に努めた。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、基盤整備を図っていくことが必要。
(16) 移動支援	・移動支援事業を実施する市町村に対し、県はその経費の4分の1を助成した。	・今後もサービスの需要に対応するため、引き続き、事業実施していくことが必要。

## 9 障害者支援施設の必要入所定員総数

	単位	R2 年度	H30 年度	R1 年度	備考
計画	人	998	1,012	1,006	
実績	人		1,034	1,034	

状況	評価
・施設入所者の地域移行に取り組むことで、入所施設の定員減員を進めていくこととしているが、施設入所者の重度化・高齢化が進む中、地域移行が進まず減員が進んでいない。	・県地域自立支援協議会の地域移行支援部会等において、本県の地域移行の現状等の把握に努めるとともに、地域移行を促進するための議論を通じて施設入所者の地域移行に取り組むことで、入所施設の定員減員を進めていく。 一方で、入所施設は高齢の障がい者や行動障がいのある障がい者等にとっては必要な社会資源であり、今後も一定の定員数を確保することが必要である。

## 10 障害児入所施設の必要入所定員総数

### ア 福祉型障害児入所支援

	単位	R2 年度	H30 年度	R1 年度	備考
計画	人	81	81	81	
実績	人		85	79	

### イ 医療型障害児入所支援

	単位	R2 年度	H30 年度	R1 年度	備考
計画	人	60	60	60	
実績	人		60	60	

## 11 発達障がい者等に対する支援

項目	単位	目標値	実績		備考
		R2 年度	H30 年度	R1 年度	
発達障害者支援地域協議会の開催回数	回	2	1	0	
発達障害者支援センターによる相談支援件数	件	1,850	1,418	1,489	
発達障害者支援センターの関係機関への助言件数	件	100	77	126	
発達障害者地域支援マネージャーの関係機関への助言件数	件	130	43	23	
発達障害者支援センター及び発達障害者地域支援マネージャーの外部機関や地域住民への研修、啓発件数	件	330	408	400	

項目	状況	評価
発達障害者支援地域協議会	保健、医療、福祉、教育、雇用関係機関等で構成する協議の場において、支援体制の検討をしている。	ライフステージに応じた切れ目のない支援体制について引き続き検討が必要とされる。
発達障害者支援センター	『エール』発達障がい者支援センターに8名の職員を配置し、相談支援、発達支援、就労支援を行っている。	県内の発達障がいの支援体制において、専門機関としての役割を果たしている。
発達障害者地域支援マネージャー	H30、R1 は鳥取療育園に、R2 は『エール』発達障がい者支援センターに1名配置した。	発達障がい者支援センターと協同し、市町村への後方支援を行い、身近な地域での支援の充実を図る必要がある。
外部機関や地域住民への研修、啓発	家庭、地域、学校、関係機関を対象とした研修会を実施している。	障がいに対する正しい理解と支援技術の向上が図られている。

## 12 医療的ケアを要する障がい児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置人数

項目	単位	目標値	実績		備考
		R2 年度	H30 年度	R1 年度	
コーディネーターの配置人数	人	19	8	12	

状況	評価
全市町村にコーディネーターを配置することを目標として、毎年「医療的ケア児等コーディネーター養成研修」	未配置の市町村があるため、引き続きコーディネーターの養成をするとともに、質の向上に努める必要がある。

を行っている。	
---------	--

### 13 障がい児の子ども・子育て支援等の提供体制の整備

項目	単位	実績			備考
		R2 年度	H30 年度	R1 年度	
第1号認定（受入施設：幼稚園、認定こども園）	件	92	52	66	
第2号認定（受入施設：保育所、認定こども園）	件	647	348	339	
第3号認定（受入施設：保育所、認定こども園等）	件	56	27	25	
放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）	件	380	296	333	

状況	評価
障がい児が、他の児童と同様に保育所等を利用できるように保育士等の加配経費を助成や、保育士等への研修を行っている。	地域の保育所等で障害児の受入れがすすむよう、市町村と連携し、引き続き体制整備を図る必要がある。

### 14 県が実施する地域生活支援事業

#### ①専門性の高い相談支援事業

項目	状況	評価
ア 発達障がい者支援センター事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>『エール』発達障がい者支援センターにおいて、全ライフステージの発達障がいのある人やその家族、支援者からの相談に応じている。成人期の相談が増えている。</li> <li>市町村や事業所等に対する技術的援助、人材育成、機関コンサルテーション、研修会への講師派遣及び普及啓発研修を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援者のスキルアップ、関係機関との連携強化により、支援体制の強化と相談支援技術の向上が図られた。</li> <li>成人期以降の、より複雑・多様化した相談に対応できる支援者の育成が必要である。</li> </ul>
イ 障害者就業・生活支援センター事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>各圏域の障害者就業・生活支援センターに「生活支援員」、「発達障がい者就労・生活支援員」を配置し、障がい者の就労支援を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者の就労支援においては、就業面と生活面での一体的な支援が必要であり、障害者就業・生活支援センターに配置する生活支援員等は、障がい者の職業生活支援等において、重要な役割を担っている。引き続き、当事業による就労支援に取り組むことが必要である。</li> </ul>
ウ 障がい児等地域療育支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育等支援施設事業として、県内6ヶ所の療育施設において、自宅や保育所等へ訪問し、在宅児童の療育に関する相談及び指導等の支援を実施。</li> <li>地域の保育所・幼稚園、学校等の施設からの訪問ニーズが高く、訪問件数は年々増加している。</li> <li>総合療育センターにおいて、療育等支援施設事業が円滑に実施できるよう、療育等拠点施設事業を実施</li> <li>総合療育センター、鳥取療育園、中部療育園に地域療育担当支援員を1名ずつ配置し、在宅児童・保護者・施設等からの相談に対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>診断まではつかないが、発達の気になる子どもが増えてきており、市町村保健師等とも連携しながら地域で専門的な指導・支援を実施することができた。</li> <li>保育所・幼稚園等、実際に子どもが通っている施設を対象とした支援により、施設職員のスキルアップ及び子どもの支援の充実にもつながっている。</li> <li>今後は、保育所等訪問支援事業との整理が必要。</li> </ul>
エ 高次脳機能障がい支援普及事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>高次脳機能障がい者支援拠点を医療法人十字会野島病院に委託設置し、支援コーディネーター1名を配置。支援ネットワークの構築、専門的な相談体制を整備。</li> <li>高次脳機能障害者家族会が実施する相談事業及び一般県民向けの普及啓発事業に対して助成</li> <li>高次脳機能障がいに関する情報や医療機関、事業所等の支援機関を掲載した「高次脳機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高次脳機能障がい支援拠点を中心に医療機関や福祉サービス事業所とのネットワークが構築されてきているが、今後さらに強化していくことが必要。</li> <li>高次脳機能障害者家族会が培ってきたネットワークと行動力を活かし、医療機関から相談のあった対象者を関係機関へつなぎ、医療から福祉への連携を促進。</li> <li>支援サイトに支援機関の状況を掲載すること</li> </ul>

	障がい支援サイト」を通じて情報提供を継続して実施。	により県民や関係機関に対して支援情報の提供を図った。
--	---------------------------	----------------------------

## ②専門性の高い意思疎通支援を行う者の養成研修・派遣事業

項目	状況	評価
手話通訳者設置事業	・鳥取県聴覚障害者協会に手話通訳者を配置し、手話通訳者等の派遣コーディネート、人材育成業務を実施した。	・手話通訳者制度の運用のため必要不可欠な事業であり、聴覚障がい者の情報保障を推進した。
手話通訳者養成研修事業	・手話通訳者の養成研修を実施した。	・手話通訳者等は着実に増えているが、鳥取県手話言語条例制定後、手話通訳依頼も増加しており、手話通訳者の養成と通訳技術向上に引き続き取り組む必要がある。
要約筆記者養成研修事業	・要約筆記者の養成研修を実施した。	・要約筆記制度の運用のため必要不可欠な事業であり、聴覚障がい者の情報保障を推進した。
盲ろう者通訳・介助員養成研修	・盲ろう者向け通訳・介助員の養成研修を実施した。	・盲ろう者向け通訳・介助制度の運用のため必要不可欠な事業であり、盲ろう者の社会参加等を推進した。
盲ろう者通訳・介助員派遣事業	・盲ろう者向け通訳・介助員の派遣を実施した。	・盲ろう者の社会参加等を推進した。

## ③サービス・相談支援者、指導者育成事業

項目	状況	評価
サービス提供責任者研修	研修実績は、以下の「15 県が実施する地域生活支援事業に係る実績」とおり。	・指定居宅介護事業所サービス提供責任者等に対し、サービスの質の確保に必要な知識及び技能習得のための研修を実施した。
サービス従業者研修		・障害福祉サービスに従事する者のうち、主に資格取得又は研修修了が要件となる職種以外の職務に従事する者に対し、更なる知識習得のための研修を実施した。
障がい福祉従事者分野別基礎研修		・居宅介護や施設業務などの障害福祉サービスに従事する者で、障がい分野に係る知識習得を希望する者に対し、身体・知的・精神の3つの障がい分野別基礎研修を実施した。
障害程度区分認定調査員等研修		・障害支援区分認定調査員及び市町村審査会委員に対し、養成・現任研修を実施した。
相談支援従事者研修		・相談支援事業に従事する者の技能向上を図るため、初任者研修、現任研修及び専門コース別研修を実施した。
同行援護従事者養成研修		・同行援護の従業者、サービス提供責任者等に対し、サービスに必要な知識及び技術を習得するための研修を実施した。
行動援護従事者養成研修		・行動援護の従業者、サービス提供責任者等に対し、サービスに必要な知識及び技術を習得するための研修を実施した。
サービス管理責任者研修		・サービス管理責任者に従事しようとする者あるいは従事する者の技能向上を図るため、基礎研修、更新研修を実施した。



児童発達支援管理責任者研修		・児童発達支援管理責任者に従事しようとする者あるいは従事する者の技能向上を図るため、基礎研修、更新研修及びフォローアップ研修を実施した。
障がい者グループホーム世話人研修		・障がい者グループホームにおいて、障がい者に対して直接支援を行う世話人の資質（専門性）を向上させるための研修を実施した。
強度行動障がい者支援研修（基礎、実践、専門）		・障害福祉サービス事業所従業者に対する強度行動障がいの特性・理解、基本的な支援技術習得のための研修を実施した。
要介助高齢知的障がい者支援研修		・障害者支援施設の従業者等に対し、支援及び介護技術の向上のための研修を実施した。
地域移行支援研修		・障害者支援施設の従業者等に対し、施設入所者の地域移行を支援するための知識習得のための研修を実施した。
精神障がい関係従事者養成研修事業（地域移行・地域定着支援関係者及び精神科訪問看護管理者・従事者）		・精神障がい者の退院支援等に従事する職員に対し、支援に必要な知識及び技術を習得するための研修を実施した。

#### ④任意事業

項目	状況	評価
盲人ホーム運営事業	・盲人ホームの運営費を助成した。	・視覚障がい者の社会的自立を推進した。
生活訓練事業	・視覚障がい者、聴覚障がい者、オストメイト（人工肛門、人工膀胱造設者）、疾病等により音声機能を喪失した人に対して、日常生活上必要なトレーニング・指導等を関係団体に委託して事業を実施した。	・各障がいに合った訓練を実施することにより、生活の質の向上が図れた。
点字・声の広報等発行事業	・「県政だより」等を点字化して発行し、県内の視覚障がい者に無料で配布した。 ・「県政だより」等を音声化し、録音テープに収録・複製して毎月発行し、県内の視覚障がい者に貸出した。	・点字化、音声化資料を作成することで視覚障がい者の情報アクセス保障に繋がった。
点字による即時情報ネットワーク事業	・日本視覚障害者団体連合（旧日本盲人会連合）の提供する最新の新聞情報等を通信ネットワーク等を利用して情報提供した。	・最新情報を提供することにより、日常生活に必要な情報の周知と社会参加を促進した。
字幕入りビデオライブラリー事業	・利用者からの要望を考慮した字幕入りビデオを制作した。	・利用者のニーズに応じたビデオの制作・貸出を行い、聴覚障がい者の情報保障を促進した。
障がいのある人のためのパソコンボランティア養成・派遣事業	・障がい者の社会参加の促進を図るため、パソコン使用に際し必要な指導等を行うパソコンボランティアを養成・派遣を実施した。	・引き続き、事業の周知等を図って利用者増に努めることで、障がい者の社会参加の促進を図っていく。
補助犬育成事業	・補助犬の貸与実績なし	・引き続き、必要とする視覚障がい者等への貸与を実施していく。
障害者社会参加推進センター設置事業	・障がい者の社会参加を促進するため、社会福祉法人鳥取県身体障害者福祉協会に委託し、障害者社会参加推進センターを設置・運営。	・障害者社会参加推進センターによる相談、啓発、生活環境改善等の各種事業により、障がい者の社会参加を推進した。
知的障がい者レクリエーション教	・スポーツ・レクリエーション活動を	・障がい者本人の自ら何かを行うと



室開催事業	通じて、障がい者の体力増強、交流、余暇等に資するため、及び障がい者スポーツを普及するため、各種スポーツ・レクリエーション教室を開催した。	いう自立意欲を高め、自己実現に繋がった。
依存症家族教室開催事業	・福祉保健局で、アルコール健康障害・薬物依存症・ギャンブル等依存症について、家族教室を開催。学習会及び家族の意見交換会（ピアカウンセリング）を実施。	・アルコール健康障害・薬物依存症・ギャンブル等依存症の問題で悩んだり、苦しんだり、心配している家族が、依存症に関する正しい知識を得ることができ、他の家族との話し合いを通じて悩みを共有することにより不安等の軽減に繋がっているものと判断。
スポーツ振興事業	・全国障害者スポーツ大会に係る鳥取県選手団個人競技選手選考記録会を開催、個人選手の選考を行い、団体競技に係る中・四国ブロック予選会及び全国障害者スポーツ大会への鳥取県選手団の派遣等を実施。 ・障がい者スポーツ指導員を養成する講習会を開催し指導者の育成等を実施。 ・鳥取さわやか車いす&湖山池マラソン大会、全日本 Challenged アクアスロン皆生大会の開催に要する費用を助成。	・指導者の育成、全国障害者スポーツ大会参加などを通じて、障がい者スポーツの振興に向けた取組を実施。 ・全国障害者スポーツ大会の個人競技の県内予選会の参加数も、増える傾向にあり、障がい者にとって目標、励みとなっている。 ・また、各種障がい者スポーツ大会の開催の支援により、障がい者に対する理解の促進や健常者と障がい者との交流を促進（県外からの参加者も増加傾向）。
精神保健福祉普及啓発事業	・精神障がい者に対する正しい知識の普及啓発等を図るため、「心の健康フォーラム」及び「心の健康まつり」の開催を実施した。	・精神障がい者に対する県民の理解を深め、社会復帰、社会参加を促進した。

## 15 県が実施する地域生活支援事業に係る実績

### ①専門性の高い相談事業

項目	単位	区分	第5期計画・第1期見計画			備考
			H30年度	R1年度	R2年度	
発達障がい者支援センター事業	拠点設置数	箇所	計画	1	1	県の拠点は1か所(エール)とする
			実績	1	1	
障害者就業・生活支援センター事業	設置数	箇所	計画	3	3	圏域ごとに1か所設置
			実績	3	3	
障がい児等地域療育支援事業	実施施設数	箇所	計画	7	7	各圏域2か所で事業実施
			実績	7	7	
高次脳機能障がい支援普及事業	拠点機関数	箇所	計画	1	1	野島病院に拠点設置
			実績	1	1	

### ②専門性の高い意思疎通支援を行う者の養成研修・派遣事業

項目	単位	区分	第5期計画・第1期見計画			備考
			H30年度	R1年度	R2年度	
手話通訳者設置事業	設置手話通訳者数	人	計画	5	5	5
			実績	4	4	
手話通訳者養成研修事業	受講者数	人	計画	40	40	40
			実績	26	43	
	登録者数	人	計画	65	70	75
			実績	54	56	
要約筆記者養成研修事業	受講者数	人	計画	30	35	40
			実績	21	17	
	登録者数	人	計画	45	50	55
			実績	33	33	
盲ろう者通訳・介助員養成研修	受講者数	人	計画	30	35	40
			実績	11	13	

盲ろう者通訳・介助員派遣件数	派遣件数	件	計画	700	750	800	
			実績	510	489		
	派遣時間	時間	計画	2,300	2,500	2,700	
			実績	2,107	2,039		

### ③サービス・相談支援者、指導者育成事業

項目	単位	区分	第5期計画・第1期見計画			備考	
			H30年度	R1年度	R2年度		
サービス提供責任者研修	受講者数	人	計画	35	35	35	
			実績	23	17		
サービス従業者研修	受講者数	人	計画	40	40	40	
			実績	61	36		
障がい福祉従事者分野別基礎研修	受講者数	人	計画	200	200	200	
			実績	274	119		
障害程度区分認定調査員等研修	受講者数	人	計画	80	80	80	
			実績	55	62		
相談支援従事者研修	養成(受講者数)	人	計画	50	50	50	
			実績	47	54		
	現任(受講者数)	人	計画	40	40	40	
			実績	46	32		
	専門コース別研修	人	計画	40	40	40	
			実績	45	15		
同行援護従事者養成研修	受講者数	人	計画	30	30	30	
			実績	50	未実施		
行動援護従事者養成研修	受講者数	人	計画	40	40	40	
			実績	78	64		
サービス管理責任者研修	基礎(受講者数)	人	計画	100	100	100	第4期計画の計画受講者数を確保
			実績	100	138		
	更新(受講者数)	人	計画		300	300	平成30年度までにサービス管理責任者研修を受講した者を令和元年度から令和5年度までに更新研修修了となるように配分
			実績		181		
児童発達支援管理責任者研修	基礎(受講者数)	人	計画	30	35	40	サービスのニーズの高まりに対応
			実績	28	60		
	更新(受講者数)	人	計画		60	60	
			実績		48		
障がい者グループホーム世話人研修	受講者数	人	計画	100	100	100	
			実績	160	206		
強度行動障がい者支援研修(基礎)	受講者数	人	計画	40	40	40	
			実績	63	81		
強度行動障がい者支援研修(実践)	受講者数	人	計画	30	30	30	
			実績	18	11		
強度行動障がい者支援研修(専門)	受講者数	人	計画	20	20	20	
			実績	11	11		
要介助高齢知的障がい者支援研修	受講者数	人	計画	50	50	50	
			実績	40	27		
地域移行支援研修	受講者数	人	計画	30	30	30	
			実績	164	未実施		
精神障がい関係従事者養成研修事業(地域移行・地域定着支援関係者及び精神科訪問看護管理者・従事者)	受講者数	人	計画	60	60	60	
			実績	113	85		

### ④任意事業

項目	単位	区分	第5期計画・第1期見計画			備考
			H30年度	R1年度	R2年度	

盲人ホーム運営事業	箇所数	箇所	計画	1	1	1	米子市内に1か所設置
			実績	1	1		
生活訓練事業	年間利用者数	人	計画	1,500	1,600	1,700	
			実績	1,584	1,449		
点字・声の広報等発行事業	発行誌種類	誌	計画	30	30	30	
			実績	14	15		
点字による即時情報ネットワーク事業	年間実利用者数	人	計画	35	35	35	
			実績	18	22		
字幕入りビデオライブラリー事業	年間利用件数	人	計画	350	400	450	
			実績	163	249		
障がいのある人のためのパソコンボランティア養成・派遣事業	年間派遣件数	件	計画	120	120	120	
			実績	55	86		
補助犬育成事業	貸与頭数	頭	計画	1	1	1	普及啓発の強化により各年度1頭の貸与を進める
			実績	0	0		
障害者社会参加推進センター設置事業	設置数	箇所	計画	1	1	1	県内に1か所設置
			実績	1	1		
知的障がい者レクリエーション教室開催事業	年間回数	回	計画	15	15	15	
			実績	12	12		
精神障がい者家族教室開催事業	年間回数	回	計画	12	12	12	
			実績	4	8		
スポーツ振興事業	協会新規加盟団体数	団体	計画	22	24	26	
			実績	20	20		
精神保健福祉普及啓発事業	年間回数	回	計画	2	2	2	
			実績	2	1		

## ⑤その他の数値目標

### (1) 教育、文化芸術活動・スポーツ

項目	数値	
特別支援教育に関する個別の教育支援計画作成率(%)	現状	84.6% (H25年度)
	中間値	91.6% (H28年度)
	目標	100% (H30年度)
	経過	97.8% (R1年度)
特別支援教育に関する教員研修の受講率(%)	現状	91.9% (H25年度)
	目標	100% (H29年度)
	経過	96.4% (H30年度)
特別支援学校教諭免許状保有率(%)	現状	76.1% (H25年度)
	中間値	81.1% (H28年度)
	目標	90% (H29年度)
	経過	88.3% (H30年度)
障がい者スポーツ指導者等登録者数(初級障害者スポーツ指導員) (人)	現状	231人 (H28年度)
	中間値	258人 (R1年度)
	目標	245人 (R2年度)
障がい者スポーツ指導者等登録者数(中級障害者スポーツ指導員) (人)	現状	25人 (H28年度)
	中間値	36人 (R1年度)
	目標	30人 (R2年度)
障がい者スポーツ指導者等登録者数(上級障害者スポーツ指導員)	現状	6人 (H28年度)

(人)	中間値	7人 (R1 年度)
	目標	7人 (R2 年度)
障がい者スポーツ指導者等登録者数 (障害者スポーツトレーナー) (人)	現状	0人 (H28 年度)
	中間値	2人 (R1 年度)
	目標	3人 (R2 年度)
障がい者スポーツ指導者等登録者数 (障害者スポーツコーチ) (人)	現状	0人 (H28 年度)
	中間値	0人 (R1 年度)
	目標	2人 (R2 年度)
障がい者スポーツ指導者等登録者数 (障害者スポーツドクター) (人)	現状	1人 (H28 年度)
	中間値	1人 (R1 年度)
	目標	3人 (R2 年度)
全国障害者スポーツ大会メダル獲得率 (%)	現状	55.9% (H25 年度)
	中間値	58% (H28 年度)
		64% (H30 年度)
	目標	60% (R5 年度)
アート活動取組団体数 (団体)	現状	33 団体 (H25 年度)
	中間値	45 団体 (H28 年度)
	目標	50 団体 (R1 年度)
	実績	45 団体 (R1 年度)
あいサポート・アートとっとり展県内出展数 (点)	現状	309 点 (H25 年度)
	中間値	479 点 (H28 年度)
	目標	500 点 (R1 年度)
	実績	470 点 (R1 年度)
個展等開催数 (件)	現状	32 件 (H26 年度)
	中間値	34 件 (H28 年度)
	目標	40 件 (R1 年度)
	実績	41 件 (R1 年度)

## (2) 情報アクセス・コミュニケーション支援

項目	数値	
手話通訳者派遣実績 (団体派遣) (件)	現状	693 件 (H25 年度)
	中間値	1,048 件 (H28 年度)
		867 件 (R1 年度)
	目標	1,400 件 (R5 年度)
手話講座等受講者 (人)	現状	1,242 人 (H25 年度)
	中間値	1,830 人 (H28 年度)
		2,176 人 (R1 年度)
	目標	2,500 人 (R5 年度)

### (3) 生活環境

項目	数値	
一定の旅客施設のバリアフリー化率（鉄軌道駅）（％）	現状	75%（H26 年度）
	中間値	100%（H28 年度）
		100%（R1 年度）
	目標	100%（R2 年度）
都市公園における園路及び広場，駐車場，便所のバリアフリー化率（園路及び広場）（％）	現状	46%（H24 年度）
	中間値	49%（H28 年度）
		52%（R1 年度）
	目標	60%（R2 年度）
都市公園における園路及び広場，駐車場，便所のバリアフリー化率（駐車場）（％）	現状	57%（H24 年度）
	中間値	59%（H28 年度）
		60%（R1 年度）
	目標	60%（R2 年度）
都市公園における園路及び広場，駐車場，便所のバリアフリー化率（便所）（％）	現状	33%（H24 年度）
	中間値	36%（H28 年度）
		40%（R1 年度）
	目標	45%（R2 年度）
車両等のバリアフリー化率（鉄軌道車両のバリアフリー化率）（％）	現状	71%（H25 年度）
	中間値	71%（H27 年度）
		71%（H30 年度）
	目標	77%（R2 年度）
車両等のバリアフリー化率（ノンステップバスの導入率）（％）	現状	49%（H25 年度）
	中間値	55%（H27 年度）
		76%（R1 年度）
	目標	70%（R2 年度）
車両等のバリアフリー化率（リフト付きバス又はスロープ付きバスの導入率（％））	現状	3%（H24 年度）
	中間値	3%（H27 年度）
		0%（R1 年度）
	目標	25%（R2 年度）
福祉タクシーの導入台数（台）	現状	72 台（H24 年度）
	中間値	69 台（H27 年度）
		256 台（R1 年度）
	目標	153 台（R2 年度）
共同住宅のうち，道路から各戸の玄関までの車椅子・ベビーカーで通行可能な住宅ストックの比率（％）	現状	8.6%（H20 年度）
	中間値	7.2%（H28 年度）
		10.2%（R1 年度）
	目標	28%（R2 年度）
高齢者（65 歳以上の者）が居住する住宅のバリアフリー化率（高	現状	9.3%（H20 年度）

度のバリアフリー化率（％）	中間値	9.8％（H28年度）
		14.9％（R1年度）
	目標	26％（R2年度）
既存県有施設のバリアフリー化率（％）	現状	55.2％（H26年度）
	中間値	55.0％（H28年度）
		62.1％（R1年度）
目標	100％（R5年度）	
既存市町村有施設のバリアフリー化率（％）	現状	31％（H25年度）
	中間値	31％（H28年度）
		31％（R1年度）
目標	47％（R5年度）	
障がい者等の入居しやすい賃貸住宅の登録戸数（戸）	現状	1,037戸（H25年度）
	中間値	1,306戸（H28年度）
		1,310戸（R1年度）
目標	1,700戸（R2年度）	

#### （４）雇用・就業等

項目	数値	
産業人材育成センターの修了者における就職率（％）	現状	100％（H25年度）
	中間値	100％（H28年度）
		100％（R1年度）
	目標	80％（R5年度）
障がい者の委託訓練修了者における就職率（％）	現状	78.2％（H25年度）
	中間値	60％（H28年度）
		33％（R1年度）
目標	80％（R5年度）	
就労継続支援B型の平均工賃月額（円）	現状	17,090円（H28年度）
	中間値	19,481円（R1年度）
	目標	33,000円（R2年度）
障がい者就業者数（人）	現状	2,347人（H25年度）
	中間値	2,952人（H28年度）
	目標	3,600人（H30年度）
	経過	3,721人（R1年度）
公的機関の障がい者雇用率 知事部局（企業局含）（％）	現状	2.65％（H26年度）
	中間値	3.17％（H28年度）
		3.25％（R1年度）
目標	法定雇用率の概ね1割を上回ることを目標（R5年度）	
公的機関の障がい者雇用率 病院局（％）	現状	2.43％（H26年度）

	目標	法定雇用率達成 (H29 年度)
	経過	2.52% (R1 年度)
公的機関の障がい者雇用率 県教育委員会 (%)	現状	2.54% (H26 年度)
	中間値	2.60% (H28 年度)
	目標	法定雇用率達成 (H30 年度)
	経過	2.16% (R1 年度)
公的機関の障がい者雇用率 県警察本部 (%)	現状	2.62% (H26 年度)
	中間値	2.60% (H28 年度)
		2.27% (R1 年度)
	目標	法定雇用率達成 (R5 年度)
公的機関の障がい者雇用率 市町村 (%)	現状	2.24% (H26 年度)
	中間値	2.34% (H28 年度)
		2.56% (R1 年度)
	目標	法定雇用率達成 (R5 年度)
障害者就業・生活支援センターにおける就職件数 (利用者の就職件数) (件)	現状	203 件 (H25 年度)
	中間値	203 件 (H28 年度)
		230 件 (R1 年度)
	目標	200 件 (R5 年度)
障害者職業・生活支援センターにおける半年後定着率 (%)	現状	91% (H24 年度)
	中間値	85.6% (H27 年度)
		85.5% (R1 年度)
	目標	80% (R5 年度)

#### (5) あいサポート運動の推進等

項目	数値	
あいサポーター数 (人)	現状	370,351 人 (H28 年度)
	中間値	544,116 人 (R1 年度)
	目標	500,000 人 (R2 年度)

## (資料4) 令和4年度鳥取県障がい者の実態・ニーズ調査の結果について

### 1. 調査の目的等

障がい者の生活実態と障害福祉サービス等に対するニーズを把握し、県障害者計画及び障害福祉計画の作成、市町村障害者計画の作成並びに今後の障がい福祉施策推進のための基礎資料を得ることを目的として実施する。

(主な質問項目)

年齢、居住市町村、障害者手帳の所持状況、居住する環境又は施設、日中の活動状況、障害福祉サービス等の利用状況、成年後見制度の利用状況、個別避難計画の作成状況 等

### 2. 調査の実施方法等

- ・ 障がい者手帳や自立支援医療受給者証、特定疾患医療受給者証をお持ちの65歳未満の方、65歳以上の障害福祉サービス受給者等を対象に調査を実施。
- ・ 在宅で生活している対象者に対しては市町村を經由して御自宅に郵送、入院・入所者等に対しては病院・施設等を經由して御本人に手交。(回答は原則御本人によるが、御本人の回答が難しい場合、家族又は介助者等が御本人の意思をくみ取って回答。)
- ・ 精神障がいのある方について、障がい者手帳や自立支援医療受給者証の取得割合が必ずしも高くないことから、精神科を有する医療機関に調査票を配架いただき希望者に調査協力いただく形式も並行して実施。

### 3. 送付・集計結果

- ・ 送付数：22,829部 ・ 回収数：8,547部 ・ 回答率：約37.4%

### 4. 集計分析結果例

(1) 前回アンケート調査(平成26年度調査)との比較(主な項目)

○前回調査と同じ質問の回答結果を比較すると、以下のような特徴がみられた。(詳細は下記表を参照)

- ・ 平均年齢は下がっている一方で、介助者の平均年齢は横ばい、平均支援区分は高くなっている。
- ・ 障害福祉サービスの利用、一人暮らしやグループホームでの生活(地域移行)、一般就労が進んでいる。
- ・ 差別を受けたり、嫌な思いをしたりしたことが「ある」又は「たくさんある」と回答した方の割合は減っている。

項目	今回 (R4)	← 前回 (H26)
回答件数(回収率)	8,547件(37.4%)	9,875件(39.9%)
回答者の平均年齢	45.5歳	51.0歳
主な介助者(家族等に限る)の平均年齢	57.8歳	57.2歳
一人暮らしをしている者の割合	12.8%	10.6%
グループホームで暮らしている者の割合	4.6%	3.8%
障害支援区分の認定を受けている者の平均支援区分	3.77	3.46
障害福祉サービス等の利用者割合	36.6%	32.3%
一般就労している者の割合	37.9%	26.4%
差別を受けたり、嫌な思いをしたりしたことが「ある」又は「たくさんある」と回答した者の割合	12.5%	21.7%



避難訓練等に参加したことがある者の割合	49.4%	44.9%
---------------------	-------	-------

(2) 各質問項目に係るクロス分析（主な項目）

- 今後の障害福祉サービスの利用希望等に関する分析（クロス集計 A）
  - ・ 利用中サービスの年代別分析では、居宅介護、生活介護、グループホーム、施設入所支援を利用している者のうち、50歳以上が半数を占めており、特に施設入所については7割を超えている。一方、短期入所については、半数以上が35歳未満であり、相対的に若年層の利用割合が高い。（A1-1）
  - ・ 利用希望サービスの年代別分析では、生活介護等、施設入所支援、療養介護の利用希望が、全年代的に回答数が比較的多く、「現在使っており、引き続き使いたい又はすぐにでも使いたい」の回答割合も高い傾向にある。また、就労継続支援 B 型の利用希望数も他サービスに比べてかなり多く、18歳以上35歳未満の利用希望が多い特徴がある。（A3-1）
  - ・ 多くのサービスが（65歳以上を除き）年代に比例して利用希望者数が増えるなか、短期入所（ショートステイ）等の利用希望は、（18歳未満を除き）年代が上がるにつれて利用希望者数は減っている。（A3-1）
  - ・ 障がい種別ごとの分析では、精神障がい者と発達障がい者は、他の障がい種別と比べて、就労系サービスの利用希望の回答割合が高くなっており、就労継続支援 B 型においては知的障がい者も同様。また、知的障がい者は、特にグループホームの利用希望の回答割合が高くなっている。医療的ケアを要する児者は、居宅介護、重度訪問介護等、訪問看護、短期入所等において、利用希望の回答割合が高くなっている。（A3-3）
- 今後の一般就労の希望に関する分析（クロス集計 B）
  - ・ 現在、就労移行支援、就労継続支援 A 型、B 型のいずれかのサービスを利用している者の分析では、全体として40%以上の者が今後一般企業等で仕事をしたいと回答。就労移行支援サービス利用者では約55%の者が、就労継続支援 A 型では約30%の者が、就労継続支援 B 型では約20%の者が、「一般企業等での仕事を希望しており、実際に支援環境等が整えば一般企業等で仕事できると思う」と回答している。（B1）
- 将来の暮らし（住まい）に関する分析（クロス集計 C）
  - ・ 現在の居住状況別の分析では、病院入院者を除き、「現在の居住状況と同様の状態を希望する」旨の回答が多かった。（C2-3）
  - ・ 現在の居住状況が一人暮らし、家族同居、グループホームの者のうち、約4～8%が「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい」と回答している。一方、福祉施設入所者のうち約6%が「（一般の住宅・アパートなどで）一人で暮らしたい」と、約17%が「家族と一緒に暮らしたい」と、約5%が「グループホームで暮らしたい」と回答している。（C2-3）
- 災害時への備えとして必要だと思うこと（防災）に関する分析（クロス集計 D）
  - ・ 障がい種別ごとの分析では、医療的ケアを要する児者は他の障がい種別に比べ、「障がいのある方に配慮した避難場所の設備（トイレ、電源等）」の選択肢を選んだ者の割合が全体平均の約1.5倍になっているなど、いずれの選択肢においても必要であると回答した割合が高くなっている。また、「障がいのある方に配慮した避難場所の確保（プライバシーの保護等）」の選択肢を選んだ者の割合を見ると、発達障がい者の割合が高くなっている。（D4-2）

(3) 自由記載欄でいただいた御意見

自由記載欄でいただいた主な御意見は別記。なお、特に御意見の多かった項目は以下のとおり。

- ・ 障害福祉サービス一般（グループホームの充実 等）
- ・ 障害福祉サービス情報の周知
- ・ 手当や年金、助成金（障害者年金、助成金の交付 等）

- ・ 仕事、就労支援（一般就労に向けた支援の充実 等）
- ・ 将来、住まい（親亡き後への不安、グループホームへの入居希望 等）
- ・ 災害対応（個別避難計画の作成 等）
- ・ 差別、障がいへの理解
- ・ 成年後見制度

## 5. その他

なお、詳細な調査結果については、以下の県ホームページに掲載しています。

掲載 URL: <https://www.pref.tottori.lg.jp/item/1328663.htm#itemid1328663>

### 【別記】自由記載欄でいただいた主な御意見

※順不同。誤字脱字等の形式的修正を行っている。

#### ○ 福祉サービス等全般について

- グループホームをもっと増やしてほしい。職員の知識と経験があり、適切な対応のできる方をもっと育成してほしい。
- 夜間に世話人がついているグループホームが増えてほしい。親が急に子供の世話ができなくなった時すぐどこか利用できる場所等を知っておきたい。
- 重度障害に対応できるグループホームが多く出来て欲しい。
- 18 才で卒業後通えるデイサービスの延長ができれば良いと思う。今、通っているデイサービスを卒業後も利用したい。
- 就労支援 A 型は仕事がキツイ B 型だと工賃が少ない。間になるような作業所が欲しい。
- 将来、就労継続支援(B 型)で就職すると思うが、現在の賃金が 1 万 8 千円/1 ヶ月くらいが県の平均と聞き、障害者年金と合わせても 6 万円くらいと思われる。一人で自立して生活するのは難しい。賃金が上がるように行政で支援してほしい。
- ショートステイする施設が少ない。自分 1 人で何でもできる方は受け入れあるが手伝いがいる人になると限られて、どこも空きがない。利用できるところを増やしていただきたいです。
- 一人暮らしについてサービスを受けたい。
- 就労継続支援事業の職員さんに看護師さん（もしくは看護の経験のおありのかた）を加えていただき、健康状態について専門的なアドバイスをいただけると有り難いと思う。
- 特に左足が不自由なので歩行トレーニングなど指導してもらえらる場所を充実させてほしい。

#### ○ 福祉サービス等の周知について

- どういうサービスがあるかどうしたらそのサービスが受けられるか、わかりやすく教えてくれるところが知りたい。（同意見多数）
- 大人の発達障害についてもっと情報やサービスがほしい。
- 何をするのも手続きが大変だった。もっと簡単にできないかと思っている。こう思っている人たちも多いと思う。取組も分かりにくい、もっと発信してもいいのではないかな？
- 使えるサービスがあれば行政の方から教えてほしい。手続きにとっても時間がかかる。介護と障害で連携してほしい。

#### ○ 行政一般について

- 手帳の更新など何かと役所に行く機会が多いが、平日に休みのない人は大変だろうなと思います。PC やスマホで更新手続きができるようになればと思います。
- 行政の方や病院の方にはよくしてもらっていると思います。コロナウイルスなど忙しい中ありがとうございます。
- 行政に相談してもちゃんとした結果が得られない事が多くたらいまわしになる事もある 行政窓口の人はだいたい

対応が冷たい。

- 実際にあるかもしれないが各種のサービスの窓口がワンストップでできるようになれば、なっているとしたら市報や新聞等で定期的に掲載してほしい。

#### ○ 相談支援、相談場所について

- 福祉サービス事業所や、企業等での専門相談員等を増やしてほしい。障害等が、なかなか理解されず、悩んでいる人々が、相談しやすい場所を増やしてほしい。
- 一人暮らしの人の相談場・相談会みたいなものを作ってほしい。
- 日常生活で悩み事、心配事ができた時、相談できるのが家族（妻）しかなくて今後は不安です。相談支援専門員さんがほしいです。
- 障害者本人や家族がつながることできる場所を増やしてほしい。

#### ○ 家計や金銭的負担、助成金等について

- 障害がある事で収入が減っているため、もう少し障害者控除を考えてほしい。
- 自立支援による医療費の助成があり、大変助かっています。安心して薬を飲み病院にかかれるのでありがたいです。
- 収入がない人の医療費をもっと安くして欲しい。特別医療費などの手続きを簡潔にしてほしい。
- 障害者手帳の何等級にかかわらず、色々な支援や給付金が受けられるようにしてほしいし免除になる制度をもう少し増やしてもらいたい。
- 現在、コロナウイルスの影響で、生活の家計が苦しい障害者の方が増えていると思うので、給付金など、経済的な支援をしてほしいです。
- 障がい者手帳を更新するために2年に一度診断書を提出しなければならないのが負担に感じます。
- 指定難病になってない難病を持っているが、A型作業所を休む事が多く金銭的な援助があると良いと思っています。生活に困っている。

#### ○ 就労について

- 一般企業等に就職するための支援を充実させてほしい。（同意見多数）
- 体調に合わせて仕事をしたいけどそうすると収入が減る。入院をすすめられたとしても仕事をしないと収入がない。お金の面で困っている。治療だけでもお金がかかるので生きやすい社会にして下さい。
- 一般企業等に就職するための支援、具体的には、情報と学習の場が欲しいです。情報では、どうやって一般企業に就職できるのか？とか実際に成功した人の情報、身体が不自由な人々にも出来る仕事の情報が欲しいです。そして、就職を達成するための学びの場があれば良いと思います。
- 障がい者採用として一般企業で勤務していたが、上司が障がいについて無知であり何か失敗すると「障がいのせいだ！」等心ない事を言われたり苦しかった。障がい者雇用とそれを支援する支援センターの連携についても疑問を持った。
- 官公庁や民間でも、障がい者雇用を進めてくださっているのですが、中での研修やステップアップ（昇給していく制度）等やりがいを感じながら仕事ができると良いなと思います。そして、正社員として安定して働ける機会が得られる制度となってほしいと願っています。収入が低いので、老後が本当に心配です。
- 一般企業での正社員としてあつかってほしい。障害になったとたん今までの仕事ははずされ別の仕事に移転された。企業内で障害者に対して、もう少し考えて支援してほしい。
- 就労に関しては、収入とやりがいについて不安があります。(将来)一般企業で働くより、各々の特性を生かして補い合えるような空間で働けるのが良いような気がします。
- 障害者雇用の幅が狭く、自らの能力と照らし合わせた就労の選択が難しい。

#### ○ 将来、住まいについて

- 将来親が亡くなった時が不安です。一人暮らしなのかグループホームなのか自分に向いているのはどちらなのかわかりません。そのことについていろいろ知りたいです。
- 一人になったら、グループホームに入らねばいけないと思います。
- 地域に暮らしていくのに必要なこととか、具体的にわかりやすく教えてほしい。今後、親が亡くなると、障害者だけでくらすのでどうしたらいいのか、考えてしまう。何か、必要なことがあるのだろうか。将来のことが心配だ。
- 入所を希望しているが順番待ちで入所できない。家庭状況などを配慮して順番を考えてほしい。
- てんかん発作や、排泄等日常生活上の支援等、医療面、介護面に対応可能な入所施設の利用を希望しています。（将来的に）必要な支援が受けられることが優先されますが、生活の場としても、安心して穏やかな気持ちで過ごせるよう、家庭的で機能が整い、質も保持された施設が増えてほしいと思います。
- 自分の老後が不安。ヘルパーさんがしてくれるのか、施設に入るのか？
- 一人暮らしがしたいです。

#### ○ 教育について

- 子どもの発達に不安があるときなど、どこに問い合わせればよいか分からず困るので、困らないようにしてほしい。グレーゾーンの子やギフテッドの子に対して学校で対応できるようにしてほしい。集団生活で過ごしやすい環境づくりをしてほしい。学校に知識を持った人を増やしてほしい。

#### ○ 恋愛、結婚について

- 精神疾患です。恋愛や結婚に希望がもちたいです。
- 異性との出会いの場が欲しいです。現時点で結婚を将来的に望んでおります。障害があっても家庭を持つことは大事。そのための支援、施策をよろしく願います。

#### ○ 医療について

- 地域から、専門の Dr. が少なく誰に相談していいかわからない。大きな病院が遠すぎる。緊急時、不安しかない。（どこかあきらめモード）
- 私は、血液透析をしています。会社勤めているのですが、もう少したくさん夜間の透析できる病院があってほしいです。
- 中部地区は、障害者を診て下さる医療機関が少ないです。県立の厚生病院でもすべての診療科がある訳ではありません。東部、西部に治療に行かずにすませられるよう、協力いただける医療機関を増やしていただきたいです。

#### ○ 災害対応について

- 個別避難計画についてもっと詳しく教えてほしい。（同意見多数）
- 酸素療法を受けています。いざという時に電源が確保できないと避難したくてもできません。私のように見た目は健康な人と何ら変わりなく生活していても、常に「酸素」のことを頭に置いておかなければならないので出来る限り自宅にとどまりたいです。もしそうすることで回りに迷惑をかけてしまうのであれば、それも心苦しいです。
- 災害にあった際ちゃんと透析がしてもらえるか不安。病院に不具合があった場合を考えると不安。
- 災害時に避難所に避難した場合、一般の避難者と一緒だとトラブルになるおそれがあるトラブルにならない様に本人が我慢した場合、ストレスにより爆発するおそれがある以上の事から災害が起きても避難する事をためらってしまう。

#### ○ 交通、移動について

- バス停が遠く外出が難しい。タクシーは高いのでなかなか利用できない。1人でも外出しやすい環境が欲しい。
- 外食するにしても、まだまだバリアフリー化が遅れている。入店出来る店が限られている。
- 自家用車を持っていない為、スーパーなど買い物に行くのが困難なのでタクシー代等をもっと安くしてほしい。スポーツ

やジムに行きたい時に足がないので困っているのでなんらかの対策をとっていただきたい。

- 1人では外出できないので介助してほしいが、経済的な負担もあるので、外出できない。何かしらの助成や補助をしてほしい。
- 友達とちょっと遊びたい。田舎なので家族がいなければほしい物が買いに行けない。公共のバスは慣れたら乗れると思うが、日曜日が家の近くには走っていないし、また行きたい場所も交通不便。

#### ○ 趣味、日中活動について

- 今、外に出なくなって2年程経ち意識意欲があっても一人では何も出来ない現状がありコミュニティの場があればと思う様になりました。行政のサービスも、必要ですが、輪を広げる事も、必要だと思います。
- 親以外との交流や買い物したり映画を見たり食事楽しみたい。

#### ○ 差別、障がいへの理解について

- 障害者に対する理解をもっと周辺に広め、生活しやすい社会になることを望みます。
- 一般の人から見たら精神の方は分かりづらいから、何気ない一言で傷つく場合があったりする。もっと沢山の人に障がいの事を理解してほしい。精神の人は無理をすると身体がえらくなる事を分かって欲しい。言葉を選んで発言して欲しいのもあるし、あまり気を使わず普通に接して欲しい。
- 私は、知的障害を持っています。私が、障害になった時は、小学生の時です。社会人になって、健常者の方とともに生活をしていくなかで、やっぱり、障害に対しての、理解は、なかなか難しいです。（健常者の方が）もちろん理解して下さる方もいます。介助してくれる人がいない時、いなくなった時、とてもこまります。
- 見た目では分からない障がいがある方への「ヘルプマーク」をもっと広めてほしい。まだまだ認知度が低いので困ったときに助けてほしい方はたくさんいると思うから。（私自身、ヘルプマークを身につけています。）

#### ○ 成年後見制度等について

- 成年後見制度についてもっと詳しく教えてほしい。（同意見多数）
- 入院とか、住居の保証人制度をなんとかしてほしい。いわば保証人がほしい。
- 無料で相談できる弁護士の方を紹介してほしい。

#### ○ その他、本調査について

- もっと生きやすい社会へ みなさん頑張ってください！！ 保健部ささえあい福祉局障がい福祉課さんサポートありがとうございます。これからもよろしく願いいたします。このアンケートがお役に立ちますように。
- 福祉に対する質問が多かったのですが、障害に応じた質問の方が答えやすかったのでは？と思いました。視覚に障害がある為に視覚に対する質問は少ない様に思いました。
- このアンケートのサイズが大きすぎる。投函するポストまで（家から）隠して持っていくのが不便。せめて半分のサイズにならないか。福祉を専門にしている部局として配慮が足りないことに行政に対する不安を感じてしまう。
- この資料1本にしても、新しい知識や情報を得ることができました。ありがとうございました。
- もっとわかりやすいアンケートにしてください。
- 精神での自立支援を利用させてもらっています。今回のアンケートがなんで自分に届いたのか不思議でしたが、自立支援を利用していると障害というひとくくりに入るのだなと感じ、障害ということに関してより身近に感じました。
- 設問の専門用語が多く、分からないことが多かったので回答しづらかったです。

## (資料5) 平成29年度鳥取県障がい児の保護者のニーズ調査の結果について

### 1 調査の概要

#### 1 調査の目的

新たな県障がい児福祉計画及び市町村障がい児福祉計画の作成並びに今後の障がい児福祉施策推進のための資料を得ることを目的とする。

#### 2 実施主体

県及び市町村

#### 3 調査機関

平成29年8月上旬～平成29年9月1日

#### 4 調査対象

鳥取県内の障がい者手帳を所持している障がい児の保護者又は障がい児通所支援を利用している障がい児の保護者

#### 5 調査方法

各市町村担当課から対象者宛に郵送でアンケート用紙を送付して実施

#### 6 調査内容

##### (1) 基本情報

年齢、障がい種別、在住市町村、医療的ケアの要否など（選択肢及び自由記述で回答）

##### (2) サービス利用のニーズ

施設種別ごとの障害児福祉サービス及び子ども・子育て支援事業利用のニーズ（選択肢で回答）

##### (3) 施策等に対するニーズ

相談している機関、今後充実を希望する施策（選択肢及び自由記述で回答）

##### (4) 困っていること及び県や市町村への要望

現在困っていることや、県や市町村への要望など（自由記述で回答）

#### 7 回答率

アンケート発送件数 (A)	1, 606
アンケート回収件数 (B)	782
回答率 (B/A)	48.7%

## 2 調査の結果

### 1 基本情報

#### (1) 年齢区分（単位：人）

3歳未満	年少～ 年長	小学1年～ 3年	小学4年～ 6年	中学	高校年齢	無回答
45	141	135	157	133	166	5

#### (2) 障がい者手帳の種別（単位：人）※重複あり

療育	身体	精神	なし
400	220	40	174

#### (3) 障がい種別（単位：人）※重複あり

発達	知的	肢体	聴覚	内部	重心	精神	視覚
370	328	133	56	49	33	21	16

#### (4) 医療的ケアの必要な児童数

合計	肢体不自由又は重症心身障がいの有無	
	あり	なし
80	58	22

### 2 障害児福祉サービス及び子ども・子育て支援事業の利用ニーズ

#### (1) 結果の概要

サービス種別		A: 現在利用あり・ 今後利用したい	B: 現在利用なし・ 今後利用したい	C: 現在利用あり・ 今後利用しない	今後利用ニーズ (A+B-C)	新規利用ニーズ (B-C)
通 所 支 援	児童発達支援	116	50	1	165	49
	医療型児童発達支援	26	14	2	38	12
	放課後等デイサービス	238	167	4	401	163
	保育所等訪問支援	60	119	3	176	116
	居宅型児童発達支援	—	—	—	—	75*
支 入 援 所	福祉型児童入所支援	13	103	1	115	102
	医療型児童入所支援	7	54	2	59	52
 シ ト ヨ	福祉型ショートステイ	25	171	0	196	171
	医療型ショートステイ	14	58	0	72	58
子 子 育 て 支 援 事 業	1号認定(教育)	17	32	3	46	29
	2号認定(保育)	41	29	1	69	28
	3号認定(乳児保育)	3	13	1	15	12
	放課後児童クラブ	33	136	2	167	134

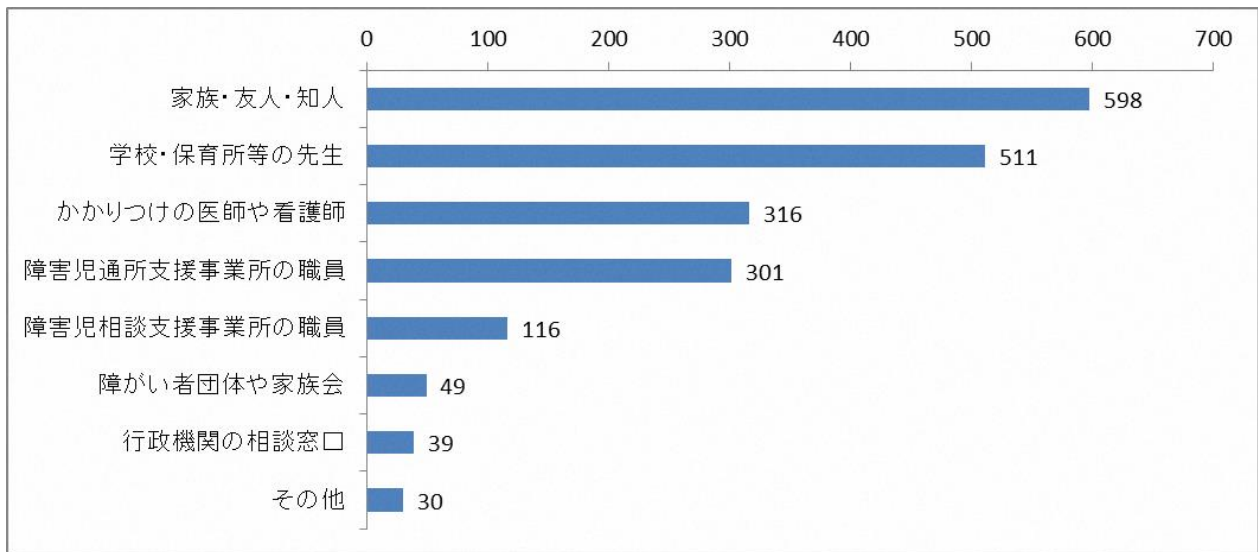
\*今後利用したいを選んだ人の数

#### (2) 結果の分析

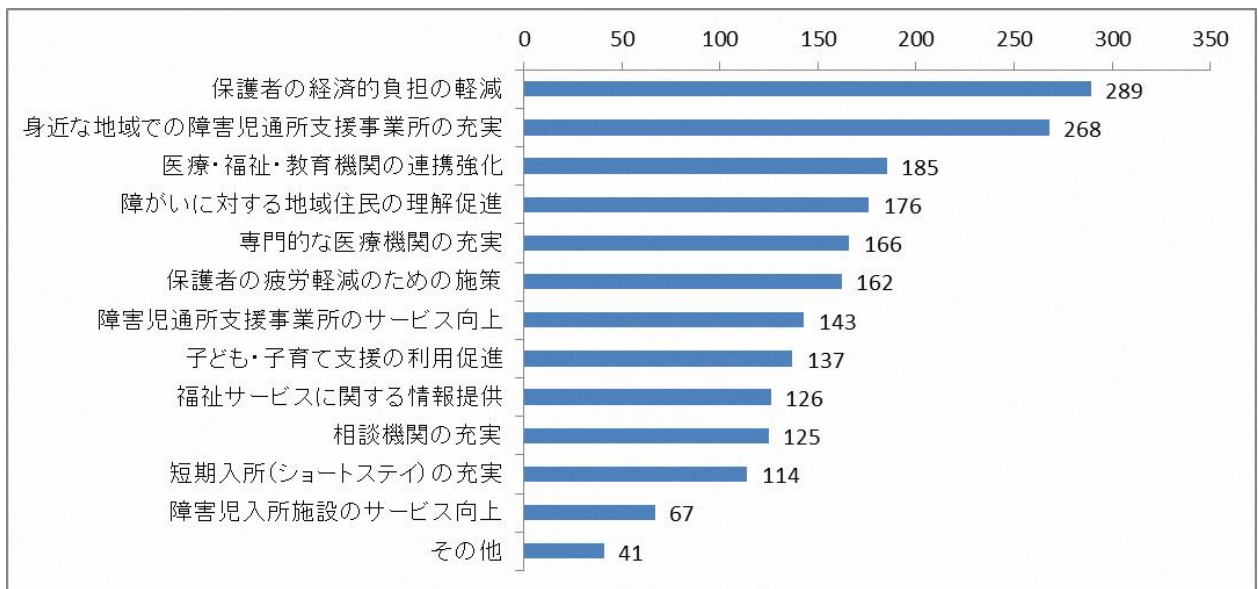
- ・サービス利用のニーズについて、特に「放課後等デイサービス」、「保育所等訪問支援」、「障害児入所支援」及び「短期入所」を今後利用したいというニーズが高かった。
- ・子ども・子育て支援事業の利用ニーズでは、特に「放課後児童クラブ」を今後利用したいとのニーズが高かった。
- ・現在利用していないサービスについても、全般的に今後利用したいとの希望が多く、今後はより一層、各サービスで受入体制を整備していく必要がある。

### 3 施策等に対するニーズ

(1) 子どものことを相談している人や機関（よく相談している人や機関を3つまで選択）



(2) 施策に対するニーズについて（特に望む施策を3つまで選択）



(3) 結果の分析

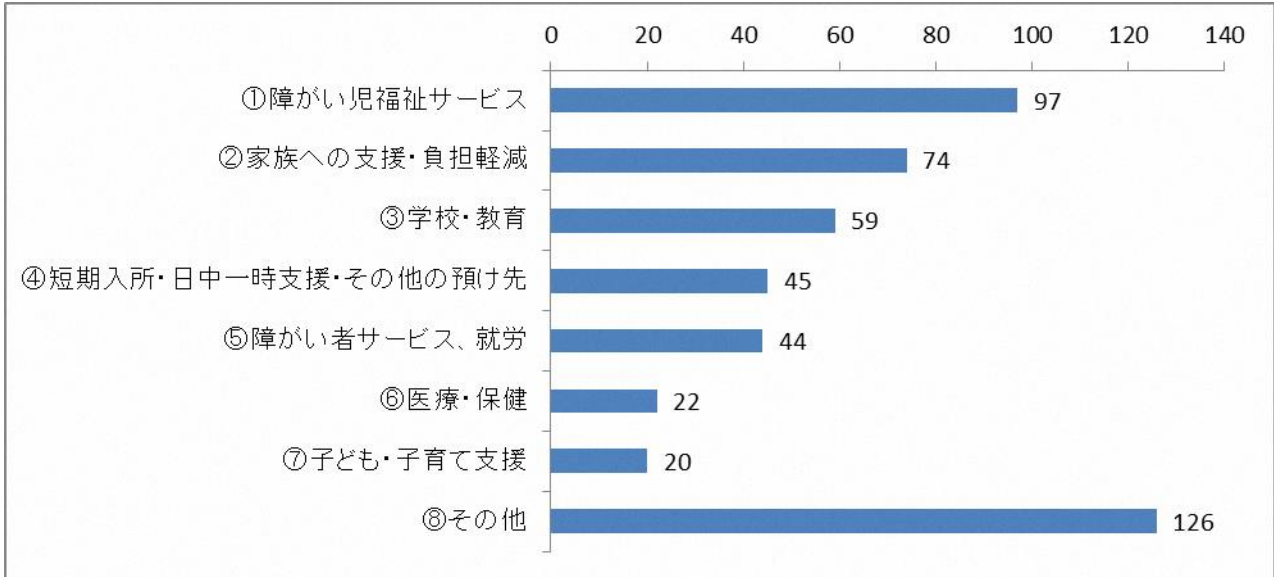
- ・相談相手については「家族」、「学校等」、「医療」、「通所事業所」が多かった。一方、障害児相談支援事業所は比較的少なく、今後は障害児相談支援事業所の質と量の確保を図る必要がある。
- ・施策に関するニーズについては、「経済負担の軽減」と「身近な地域での障害児通所支援事業所の充実」が他の項目よりも高く、これらの施策のより一層の推進が求められているものと考えられる。また他の10項目についても概ね100件以上の施策の充実を望む声があることから、これらの施策の推進についても同様に行っていく必要がある。
- ・その他の項目では、就労支援や教育についての施策の推進を望む記述が多かった。



#### 4 困っていること及び県や市町村への要望など

782件のアンケート回収件数のうち、323件の自由記述による回答があった。その内容を項目ごとに分類し、分析を行った（重複あり）。

##### (1) 分類項目及び件数



##### (2) 分類項目ごとの内容詳細及び件数

分類項目	内容詳細及び件数								
①障がい児福祉サービス	通所支援施設の受け入れ体制充実(施設数増、受入回数増、長期休暇時の受入先確保、看護師確保など)	通所支援施設のサービス提供時間の充実(開所・閉所時間の延長、日・祝日の利用など)	通所支援施設の支援内容の充実(職員の専門性向上、リハビリテーションの実施、入浴サービスの実施など)	身近に利用できる通所支援施設の充実	送迎支援の充実	医ケア児の受入先の不足	身近に利用できる入所施設の充実		
	34	21	20	7	7	7	1		
②家族への支援・負担軽減	保護者の就労(預け先がないか、時間の制約があり就労が制限されるなど)	経済負担の軽減(手当の増額、助成の増額など)	親の会など情報交換のや交流の場の推進	きょうだいへの支援	保護者の疲労軽減	子どもとの関わり方の悩み			
	26	24	10	6	5	3			
③学校・教育	教員の専門性向上	学校生活や学校選択への要望(発達障がい児や医療的ケア児への学校での合理的配慮など)	学校への送迎支援の充実	通級指導教室の充実(設置数の増、支援時間の増など)	その他(養護学校整備、進学・就労支援の充実、心理士配置の充実、学校のバリアフリー化、聾学校の言語聴覚士配置など)				
	16	12	11	7	13				
④短期入所・日中一時支援・その他の預け先	短期入所の充実(事業所の確保、支援内容の向上など)	その他預け先の不足(預け先が特定されていないもの)	医ケア児の預け先(施設が特定されていないもの)	日中一時支援の充実(事業所の確保、支援内容向上など)					
	23	12	7	3					
⑤障がい者サービス・就労	就労先及び就労支援の充実	グループホームや入所施設の受入体制充実(数の増、職亡き後の受入など)	生活介護の受入体制の充実(数の増など)	その他(居宅介護、行動支援の充実など)					
	19	14	7	4					
⑥医療・保健	医療機関充実(脳神経小児科などの専門医療機関の確保、専門医に日常的に診察・相談できる体制の確保など)	その他(訪問看護の充実、健診時間の配慮など)							
	19	3							
⑦子ども・子育て支援	保育園、幼稚園、こども園職員の専門性向上	保育園、幼稚園、こども園の受入先確保	障害児保育の充実	病児保育の充実	保育所等への看護師配置	放課後児童クラブの受入先確保			
	6	5	3	3	2	1			
⑧その他	行政機関の対応改善(手続きの簡素化、HPや書面等でのわかりやすい情報提供、行政職員の理解促進など)	相談できる機関や専門家の充実(特定していないもの)	地域住民の理解の推進(理解啓発の推進、差別の解消など)	地域設備の改善等(こどもの遊び場の増、地域のバリアフリー化、災害時の避難所の設備充実、障がい者用の駐車スペースの確保など)	機関連携(医療、教育、福祉、行政の連携)	療育機関の充実(機関を特定していないもの)	アンケート内容不満	現状満足	その他(軽度障がいへの支援拡充、学習塾の充実など)
	30	20	18	11	9	8	7	5	18

### (3) 結果の分析

- ・分類項目では「障害児福祉サービス」「家族への支援・負担軽減」に分類される内容が多かった。また、4番目に多く分類された項目が「短期入所・日中一時支援・その他の預け先」だった。このような内容に分類される意見には、「障害児通所支援事業所の受入先や受入回数の少なさにより、保護者の就労が制限され、経済的な負担が大きい」「短期入所の受入先や、こどもを預ける場がなく、保護者の疲労がたまる」といったように相互に繋がっているものが見られた。今後はより一層、障害児通所支援事業所の受入体制の充実と、短期入所をはじめとする、保護者のレスパイトサービスの充実を図ることで、障がい児及びその保護者が地域で安定した生活を送るための基盤整備が必要と考える。
- ・また、5番目に多く分類された項目は「障がい者サービス・就労」であり、多くの保護者が子どもの将来を心配していることがうかがわれた。具体的には、安定した就労先の確保、生活介護事業所の定員確保、グループホームの受入体制の充実を要望する意見が多く、障がい児の将来を意識した、切れ目のない支援体制の構築や関係機関の連携の推進が望まれる。
- ・その他の項目についても、関係部局と連携し、必要な施策を推進していくことが望まれる。

(資料6) あいサポート・アートセンターについて

あいサポート・アートセンター 障がいのある人の文化芸術活動拠点を設置	
<b>相談支援</b> 障がいのある人やその支援者等から文化芸術活動全般に関する相談を受け付け、アドバイスや関係機関等を紹介	<b>人材育成</b> 支援者等に対し、創作活動の支援方法や、作品の販売、権利保護、鑑賞サポートなどに関する研修会等を開催
<b>機会創出</b> 優れた作品の展示やワークショップの開催等により、鑑賞、創造、発表等、様々な文化芸術に参加する機会を創出	<b>情報発信</b> 県内外の作品展や公演、講座の開催情報など、障がいのある人の文化芸術活動に関する幅広い情報を収集し、発信